

講義要綱

Syllabus

2024

1 期生 1 年次

長崎県央看護学校 看護師 3 年課程

はじめに

講義要綱(シラバス)とは、授業に関する基本的な情報をまとめた「授業概要の説明書」です。各年度のはじめに学生 みなさんに配布し、学習を進める際の手がかりとして活用されるよう編集されています。科目概要と到達目標、授業方法・授業計画に始まり、教科書や参考文献など、より理解を深めるための学習ができるように工夫されています。

また、成績評価の方法や履修上の留意点など、学習の評価と直結する内容も盛り込まれています。授業に出席する前には、各科目のシラバスを必ず読み込んで当日に備えるようにしてください。

それぞれの授業科目には、その科目の学修に必要と考えられる時間数を基準にして「単位」が定められています。授業、予習や準備、復習や課題を達成する時間などを総合して45時間となるとき、これを1単位とすることを標準としています。授業科目の単位数は授業を受けるだけでなく、予習や復習等が必要であることを前提に定められていることを銘記しておきましょう。

目次

教育理念・教育目的・教育目標P3～6
教育課程P7～8
講義要綱(シラバス)の見方P9～10
授業科目と評価区分及び学年別単位数・講師一覧	..P11～12
基礎分野P13～22
専門基礎分野P23～35
専門分野P36～57
基礎看護学P37～45
地域・在宅看護論P46
成人看護学P48～51
老年看護学P52～54
小児看護学P55
母性看護学P56
精神看護学P57
基礎看護学実習P58～59

教育課程の基本概念

カリキュラムを構築する基本概念を、「看護」と「看護師育成」の2つの視点から明らかにした。看護の基本概念は、看護の主要概念である「人間」「環境・社会」「健康」「看護」、看護師育成の基本となる概念を、「学習」「教育」と捉えた。

本校の教育課程の基本概念は、この6つの枠組みで構成する。

教育課程の基本概念	
人間	<p>人間は、唯一無二の存在であり、個別的・社会的存在である。人間は、生物体であり、環境との相互作用を持ち、誕生から死まで、絶えず、成長・発達・変化している。</p> <p>人間は、身体的・精神的・社会的存在としての生活統合体であり、多様な価値観を持ち、個別の生活様式を持つ。統合体としての人間は、変化や刺激に対して統合機制*¹を働かせて対応し、心身一体として存在している。この統合機制の働きの結果として反応や行動が起きる。</p> <p>人間は、様々なニーズを充足するために行動し生活している。人間は、自らの責任において意思決定し、自己実現へ向かう存在である。</p> <p>人間は、病気に対処する回復力をもっており、回復に適した安全な環境を用意すれば、力の及ぶ限り、自分で回復することができる。</p>
環境 ・ 社会	<p>環境とは、人間を取り巻くすべてであり、人間も環境の一部である。環境は、その人の統合機制を活性化させる刺激であり、健康状態に影響を与える。環境には、外的環境、内的環境があり、人間の生活に直接的・間接的に影響する。</p> <p>外的環境は、物理的・化学的・生物学的環境及び人的・社会的環境があり、これらは相互に影響しあう。内的環境とは、体内環境を指す。</p> <p>社会は、環境の一部である。社会は構成する人間の相互作用によって変化する。社会の中で人間がよりよく生きるために、法、政治、経済、文化、教育、医療、福祉などの機能がある。社会は、個人・家族・地域から構成され、社会の最小単位は家族である。家族は、多様である。</p>
健康	<p>健康の概念は、主観的・個別的なものであり、時代とともに変化する。健康は、すべての人の基本的な権利であり、人間の幸福の一条件である。</p> <p>WHOは、健康とは単に疾病や障がいがないというだけでなく、身体的にも、精神的にも、社会的にも完全な良い状態と定義している。健康とは、身体的・精神的・社会的統合の状態及び過程であり、統合とは諸機能が滞りなく働いている状態である。その人のその時の健康状態は、最適な健康レベルから死のレベルにいたる連続した過程の中で位置付けられる。</p> <p>人間は、自らの健康を維持するために、健康をコントロールし改善することができるようなプロセスを獲得し実践していく。健康は一人ひとりの人生の目標を達成するための基盤である。</p>

看護	<p>看護は、あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象とし、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通して最期まで、その人らしく生を全うできるよう保健医療福祉を提供する。</p> <p>看護は、患者の個別性を尊重し、自立を支援する営みである。看護活動は、看護に必要な情報収集、解釈、問題の明確化、計画立案、実施、評価を構造とし、実施される。実施には、科学的根拠(探究するという言葉の意味が含まれる)に基づいた技術と、人間尊重の思想を基盤とした態度が必要であり、対象者と看護者との関係の中で成立し展開される。</p> <p>看護職は、免許によって看護を実践する権限を与えられた者である。看護職は、社会的な責務を果たすため、看護の実践にあたっては、「看護職の倫理綱領」を行動指針とする。看護職は、多様な場において、多職種と連携・協働し対象の多様性・複雑性に対応した看護を創造しうる能力を持つ。</p>
学習	<p>学習とは、学習者自身が経験を通して自己を変化させ成長していく過程である。経験の結果として生じるのは、永続的な行動の変容である。経験を通じて知識や技能、環境に適応する力、自分で課題を見つけ自ら学び主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力を身につける。主体的に学ぶとは、外発的・内発的動機づけによって、学生自身が興味をもって積極的に取り組み、学習活動を自ら振り返り意味づけ、身についた資質や能力を自覚し、共有することをいう。</p> <p>学習とは他者の考え方、見方を受け止め、尊重し、対話的に学び、相互に高め合うことである。対話的に学ぶとは、学生同士、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりに考えることで、自分と他者の意見や考え方を比較したり、自分だけでは気づくことが難しい気づきを得たりしながら、考えを広げたり深めたりすることである。</p> <p>学習の目的は、社会に適応するために必要な知識、技能を身につけ、人間性を養うことにある。学習者は社会と連携・協働しながら、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルと必要な資質を学ぶ。</p>
教育	<p>教育とは、教育を受ける権利を有する学習者の行動に価値ある変化をもたらすプロセスであり、生涯にわたり学び続ける力を育てるものである。教育は学習者と教育者の信頼関係を基盤に行なわれ、学習者と教育者、学習者同士は、共に学習し合っていく関係にあり、互いに成長していく。</p> <p>教育は、学校の教育目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、教育目標の達成を目指し、意図的計画的に学習者に働きかけるものである。教育活動は、個人の内在する資質、学習者の自己成長・発達の潜在能力を最大限に引き出すように学習方法や学習環境を整え、個々の学生の状況をふまえて行う。</p> <p>教育により学習者が身につけるものは、人間的成長であり、生きる力である。生きる力とは、知識・技術だけでなく、豊かな人間性や真理を求める態度、様々な心理的・社会的な資源を活用して複雑な課題に対応することができる力であり、伝統や多様な文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度や公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参加し、発展に寄与する態度のことを指す。</p>

* 1 統合機制：身体的精神的・社会的統合機制のことをいう。身体的統合には、さまざまな要因によってたえず変化する内部環境をコントロールし、身体の一部機能を全体的に調整しようとするメカニズムが働く。精神的・社会的統合にはコーピング機制が働く。コーピングは、人がその人のやり方でストレスや脅威を緩和・軽減・除去しようとする試みの過程をいう。

教育理念

本校における看護教育は、社会の変化・情勢に対応し、保健・医療・福祉の向上を目指して社会に貢献できる看護実践者を育成することである。

この考えに基づき、人々から信頼を得られる看護の専門的な知識・技術・態度を養い、生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性を育成することを本校の責務とする。教育の基本は、学生が主体的に学び、自己成長できるよう支援していくことである。

教育目的

看護師となるために必要な豊かな人間性を養い、専門的知識・技術・態度を修得すると共に保健・医療・福祉システムにおけるチームの一員として社会に貢献できる看護師を育成する。

教育目標

1. 生命の尊厳と人間尊重の理念に基づき、豊かな感性と調和の取れた人間性を養う。
2. 社会の変化に対応し得る基礎的能力を養う。
3. 人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
4. 保健医療福祉システムと他職種との役割を理解し、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々への看護を提供するための基礎的能力を養う。
5. 専門職業人として最新知識・技術を自ら学び続け、看護師として自己成長できる基礎的能力を養う。

アドミッション・ポリシー（本校が求める入学者像）

本校では教育の理念に基づき、協同の精神を柱に保健・医療・福祉の向上を目指し、社会に貢献できる看護実践者の育成を目指す。そのため、入学生には以下のような人材を求める。

1. 誠実でやさしさ、思いやりのある人
2. 周囲の人と協力し合い、自分の役割を果たせる人
3. 一定レベルの学力を有し、看護師になるための専門的知識・技術・態度の修得に向けて努力できる人
4. 看護師として社会に貢献するという明確な目的意識を持っている人
5. 生活・健康の自己管理ができ、責任ある行動がとれる人

ディプロマ・ポリシー（期待される卒業生像）

所定の課程を修め、104単位の単位修得条件を満たした上で、次のような能力を備えた者に卒業を認定し、専門士（医療専門課程）称号を授与する。

人間力

1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。

思考力

2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。

行動力

3. 主体性をもちながら、他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。
4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。

創造力

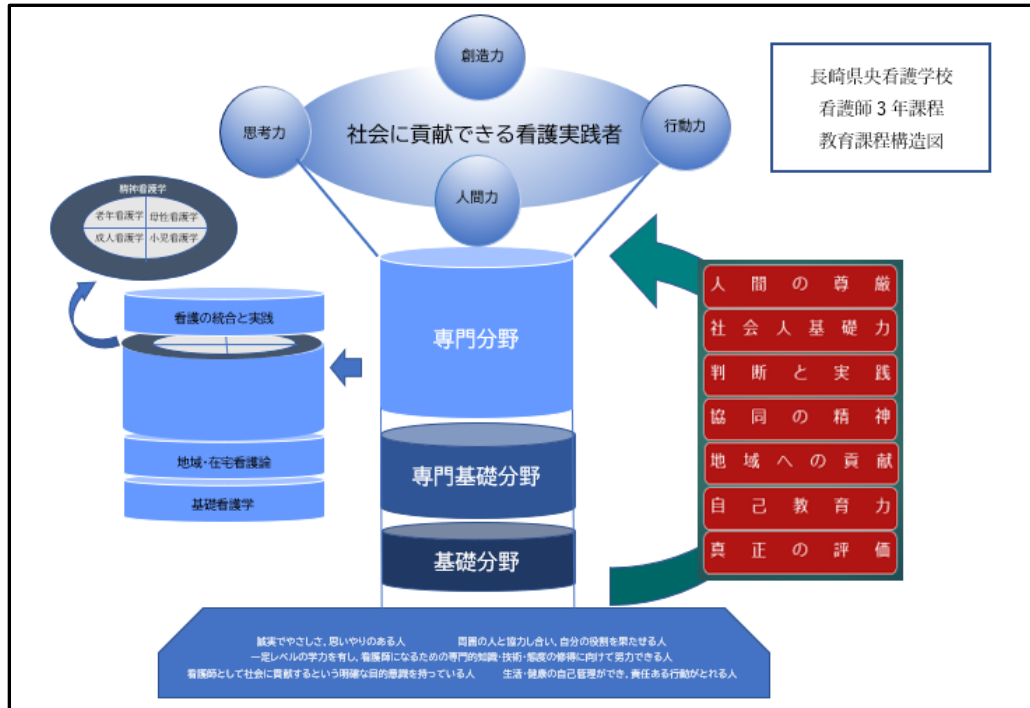
5. 看護師としての使命感を持ち、時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。
6. 変化を恐れず、新しい問題へ対応するために創意工夫できる力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育の7つの柱）

人間の尊厳	1. 生命と個人の尊厳を守り、倫理的ジレンマを克服するコンピテンシーを身につけるための機会を提供する。
協同の精神	2. 他者と心と力を合わせ、共有した目標の達成に向け、今為すべきことを見つけ、真剣に取り組む体験を提供する。
判断と実践	3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。
社会人基礎力	4. 保健・医療・福祉における専門職業人として行動するために、教科及び教科外活動を通じて社会人に求められる基礎的能力を身につける機会を提供する。
自己教育力	5. 最新知識・技術を自ら学び続け、看護の質の向上を図る能力を身につける機会を提供する。
地域への貢献	6. 対象の生活に密着した看護実践者であると共に、地域への愛着をもち、地域の課題解決に向け貢献できる人を育成するカリキュラムを展開する。
真正の評価	7. 看護師として実際に直面する問題と教育の評価で用いる課題との同質性を重視し、学習のプロセスと成果の質を評価する。

教育理念とディプロマ・ポリシーに示された到達目標を達成するため、7つの柱を決定し、カリキュラムを作成する。

カリキュラム・ポリシーを可視化し、教育課程の有機的つながりを明らかにするために、教育課程構造図を策定する。



教育課程構造図説明文

本校の教育理念である「社会に貢献できる看護実践者の育成」のために、7つのポリシーを貫いたカリキュラムを構築する。教育の過程における様々な経験の積み重ねにより、豊かな人間性を育み、社会に貢献するための思考力、行動力を備え、時代のニーズに応え、変化に対応する創造力をもつ看護実践者として自己成長できる基盤を養う。

本校の教育課程は「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」の3分野で構築する。基礎分野は「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」について学ぶ。人間と社会を幅広く理解し、科学的思考力及びコミュニケーション能力、情報通信技術（ICT）を活用する能力を高め、感性を磨き、幅広い考えから判断と行動を促す内容とし、専門基礎分野及び専門分野を学ぶ土台とする。

専門基礎分野は「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」について学ぶ。看護学の観点から人体を系統的に理解し、健康・疾病・障がいに関する観察力、判断力を身につけ、臨床判断能力を養う。人々が健康な生涯を送ることを目的として、社会資源を有効に活用できるよう支援するために必要な知識と基礎的能力を養う。

専門分野は「基礎看護学」「地域・在宅看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護の統合と実践」で構成する。「基礎看護学」では全ての看護学の基盤となる基礎的理論や基礎的技術を、松木光子の生活統合体モデルを理論的基盤にして展開する。「地域・在宅看護論」では、すべてのライフサイクルの特性を踏まえ、地域で生活しながら療養する人と家族を理解し、地域における様々な場での看護や多職種との協働や連携について学ぶ。

人間の誕生から死に至る、人の一生に関わる看護学として「母性看護学」「小児看護学」「成人看護学」「老年看護学」「精神看護学」の5つの看護学を構築する。人間の成長発達は加齢に伴う変化過程であり、常に連続体であると考え、ライフサイクル各期の特徴と健康上の課題を明らかにし、対象の特性に応じた看護が実践できる基礎的能力を育成する。「精神看護学」は、あらゆる発達段階に関わる心の健康について学

ぶ。「看護の統合と実践」は学修した知識と技術を統合し、卒業後、臨床現場に適応できることを目的に、臨床の実務に活用できる内容を学ぶ。

机上の知識や技術の統合を図り、看護の受け手との関係形成やチーム医療において必要な対人関係能力や倫理観を養うと共に、看護専門職として自己を省察する能力を身につけるための臨地実習は、1年前期に早期体験実習を行うことで学習の動機づけを行い、3年次まで学修の進度に応じて配置する。また3年間にわたり、看護師国家試験受験資格に必要な科目を系統的に配置する。

1. 講義要綱(シラバス)の見方

1) 授業科目と評価区分及び学年別単位数・講師一覧

本年度の本校で学ぶ全ての「授業科目」「単位数」「時間数」「授業科目の配当年次」「担当講師及び担当時間」等について記載しています。授業科目の担当講師の確認や試験内容、授業時間の確認などに利用して下さい。

授業科目の中には、1つの授業科目を複数の講師で担当する科目や1つの授業科目の単位認定を複数の試験で行う授業科目もあります。また、単位認定試験の受験資格も授業科目により異なるものもあります。特に「担当講師の試験組み合わせ」の項目の*マークのついている授業科目は、履修条件に注意が必要です。各授業科目の講義要綱(シラバス)と照らし合わせて、確実に確認しておきましょう。また、履修規程と関連させて参照してください。

2) 各授業科目のシラバスの解説

各項目には、次の内容が、書かれています。学習を進める際の参考にして下さい。

①科目名

授業科目の名称です。

②担当講師

今年度、科目を担当する講師名です。

③単位数(時間数)

授業科目の単位数と()内には、授業科目の総時間数が書かれています。複数の担当講師の場合、各々の時間を明記しています。

④配当年次

配当年次とは、授業が行われる学年を表しています。その学年にならないとその授業科目を受けることはできません。但し、自分の年次(学年)以下で開講している授業科目については、履修することができます。

⑤科目の概要

この授業科目で学ぶ内容の概要です。当該科目の領域や社会における有用性を説明すると共に、既習内容との関係を配慮して、関連科目との体系的・構造的関係を記載しています。

⑥到達目標

受講後に期待される姿です。理解して欲しい知識や修得して欲しい技術、身につけて欲しい態度や能力などを具体的に記載しています。

⑦関連科目

本科目と関連する他の科目名を記載しています。

⑧CP・DPとの関連

本科目と本校のカリキュラムポリシー及びディプロマポリシーとの関連について記載しています。

⑨授業計画

毎回の授業テーマや授業内容が記載されています。

⑩方法

講義や実技など授業の形態です。

⑪成績評価

単位認定のためにどのように成績を評価するのかを記載しています。評価の具体的な方法と配点基準です。単位認定試験や課題の提出状況、出席状況、授業態度等、評価方法は、各授業科目により異なります。

⑫履修上のアドバイス

この授業科目を履修する上で必要となる注意事項です。

⑬テキスト

この授業科目で使用する教科書です。

⑭参考文献

学習を深める際に参考にとるとよい文献です。

授業科目と評価区分及び学年別単位数・講師一覧（令和6年度 1年生用）

区分・内容	授業科目	単位	時間	1学年	2学年	3学年	評価区分	1試験時間	担当時間		講師名	
基礎分野	科学的 基礎	情報科学	1	30	1		1試験	30	30	*	江川明美	
		日本語表現法	1	15	1		1試験	15	15		銭坪玲子	
		看護のための物理学	1	15	1		1試験	15	15		福山隆雄	
		家庭教育学	1	15	1		1試験	15	15		菅原良子	
		家族社会学	1	15	1		1試験	15	15		吉野浩司	
		心理学	1	30	1		1試験	30	30		柳田多聞	
		人間関係論	1	30	1		1試験	30	30	*	土居隆子	
		健康と運動	1	30	1		1試験	30	30		阿南祐也	
		異文化コミュニケーション	1	15	1		1試験	15	15		池田祐香	
		生涯学習論	1	15		1	1試験	15	15			
		倫理学	1	15		1	1試験	15	15			
	看護哲学	1	30	1		1試験	30	30				
	医療英語	1	30		1	1試験	30	30				
	地域社会と健康	1	15		1	1試験	15	15				
専門基礎	人体の構造と機能	解剖生理学 I	1	30	1		1試験	30	30	*	高橋美智子	
		解剖生理学 II	1	30	1		1試験	30	30	*	高橋美智子	
		看護形態機能学 I	1	30	1		1試験	30	15	*	片山小百合	
								15	*	中野真由美		
		看護形態機能学 II	1	30		1	1試験	30	30			
		看護生化学	1	30	1		1試験	30	20		後藤信治	
		看護生化学							10	*	今里和義	
		栄養と健康	1	15	1		1試験	15	15	*	河辺千鶴子	
		治療総論	1	15	1		1試験	15	15	*	福田浩敏	
		疾病と治療論 I (呼吸器)						1試験	16	16	*	福島喜代康
		疾病と治療論 I (感染症)	1	30	1		1試験	6	6	*	松本恵太	
疾病と治療論 I (免疫)						1試験	8	8	*	岸川孝之		
疾病と治療論 II (血液造血器)	1	30	1		1試験	10	10	*	岸川孝之			
疾病と治療論 II (循環器)						1試験	20	20	*	満岡涉		
疾病と治療論 III (消化器)						1試験		12	*	北島知夫		
疾病と治療論 III (手術と麻酔・救急)	1	30	1		1試験	30	12	*	宮本俊吾			
疾病と治療論 III (口腔・歯科)						1試験		6	*	納富拓		
疾病と治療論 IV (脳神経)						1試験	16	6				
疾病と治療論 IV (脳神経)	1	30		1		1試験		10				
疾病と治療論 IV (運動器)						1試験	14	14				
疾病と治療論 V (腎・泌尿器)						1試験	14	14				
疾病と治療論 V (女性生殖器)	1	30		1		1試験	16	14				
疾病と治療論 V (乳腺)						1試験		2				
疾病と治療論 VI (内分泌・代謝)						1試験	12	12				
疾病と治療論 VI (耳鼻咽喉)	1	30		1		1試験	6	6				
疾病と治療論 VI (眼)						1試験	6	6				
疾病と治療論 VI (皮膚)						1試験	6	6				
薬理学	1	30	1			1試験	30	30	*	池田理恵		
専門基礎	健康支援と社会保険制度	微生物と人体	1	30	1		1試験	30	16	*	吉川大介	
								4	*	犬尾元		
								4	*	松本恵太		
								6	*	山口友子		
		医療と倫理	1	15		1	1試験	15	15			
		社会保険制度論	1	30		1	1試験	30	30			
		社会福祉概論	1	15		1	1試験	15	15			
		健康福祉教育論	1	15		1	1試験	15	15			
		関係法規	1	15		1	1試験	15	15			
		公衆衛生学	1	15		1	1試験	15	15			
		専門基礎	基礎看護学	看護学概論	1	30	1		1試験	30	10	*
看護学概論									20	*	田中伸子	
看護コミュニケーション	1			15	1		1試験	15	15	*	後藤富美子	
看護倫理	1			15	1		1試験	15	11	*	田中伸子	
									4	*	徳永陽子	
基礎看護技術 I	1			30	1		1試験	30	10	*	田中伸子	
基礎看護技術 I									20	*	吉野千春	
基礎看護技術 II	1			30	1		1試験	30	30	*	中村伊織	
基礎看護技術 III	1			30	1		1試験	30	30	*	西村優子	
基礎看護技術 IV	1			30	1		1試験	30	15	*	後藤富美子	
基礎看護技術 IV									15	*	中村伊織	
基礎看護技術 V	1	30	1		1試験	30	30	*	西村優子			
臨床看護総論	1	30	1		1試験	30	30	*	吉野千春			
フィジカルアセスメント	1	30		1		1試験	30	30				
看護過程と看護臨床判断	1	30		1		1試験	30	30				
看護研究	1	30		1		1試験	30	30				

区分・内容		授業科目					単位	時間	1学年	2学年	3学年	評価区分	1試験時間	担当時間	講師名	
専	地域・在宅看護論	地域で暮らす人と健康											10		佐藤快信	
		地域で暮らす人と健康	1	30	1				1試験	30			10	*	田中伸子	
		地域で暮らす人と健康											10	*	中村伊織	
		地域・在宅看護概論	1	30	1				1試験	30			6	*	松尾彰	
		地域・在宅看護概論											24	*	隈上貴子	
		地域・在宅看護援助論	1	15		1			1試験	15	15					
		在宅看護技術	1	30		1			1試験	30	30					
		在宅療養者の状態別看護												14		
		在宅療養者の状態別看護	1	30		1			1試験	30				8		
門	成人看護学	在宅療養者の状態別看護											8			
		多職種連携活動論	1	30			1	1試験	30	30						
		成人看護学概論	1	30	1				1試験	30	30	*			後藤富美子	
		成人臨床看護総論	1	15	1				1試験	15	15	*			後藤富美子	
		成人臨床看護の実際Ⅰ(呼吸器)											12	*	松村圭一郎	
		成人臨床看護の実際Ⅰ(血液・造血器)	1	30	1				1試験	30			10	*	松尾美咲	
		成人臨床看護の実際Ⅰ(がん看護)											8	*	徳永陽子	
		成人臨床看護の実際Ⅱ(循環器)											12	*	眞壁里美	
		成人臨床看護の実際Ⅱ(消化器)	1	30	1				1試験	30			10	*	宗美晴	
		成人臨床看護の実際Ⅱ(感染症)											8	*	竹村恵	
		成人臨床看護の実際Ⅲ(内分泌)											12			
		成人臨床看護の実際Ⅲ(腎)	1	30		1			1試験	30			8			
		成人臨床看護の実際Ⅲ(泌尿器)											10			
		成人臨床看護の実際Ⅳ											8			
		分	老年看護学	成人臨床看護の実際Ⅳ	1	30		1		1試験	30			10		
成人臨床看護の実際Ⅳ												12				
老年看護学概論	1			30	1				1試験	30	30	*			片山小百合	
老年看護援助論	1			15	1				1試験	15	15	*			片山小百合	
老年期に特有な障害と看護													26	*	片山小百合	
老年期に特有な障害と看護	1			30	1				1試験	30			4	*	藤本慶次郎	
分	小児看護学	老年臨床看護の実際	1	30		1		1試験	30							
		小児看護学概論	1	30	1			1試験	30	30	*			西村優子		
		小児臨床看護総論	1	15		1			1試験	15						
		小児期に特有な疾患と看護											8			
		小児期に特有な疾患と看護	1	30		1			1試験	30			22			
		小児臨床看護の実際											18			
分	母性看護学	小児臨床看護の実際	1	30		1		1試験	30			8				
		小児臨床看護の実際										4				
		母性看護学概論	1	30	1				1試験	30	30	*			中野真由美	
		周産期の正常な経過とハイリスク											6			
		周産期の正常な経過とハイリスク	1	30		1			1試験	30			14			
		周産期の正常な経過とハイリスク											10			
分	精神看護学	周産期にある人の看護	1	30		1		1試験	30	30						
		周産期の看護技術	1	15		1		1試験	15	15						
		精神看護学概論	1	30	1				1試験	30	30	*			吉野千春	
		心と健康のための治療と看護											10			
		心と健康のための治療と看護	1	30		1			1試験	30			20			
		精神看護技術	1	15		1			1試験	15			5			
野	看護の統合と実践	精神看護技術										10				
		精神臨床看護の実際	1	30		1		1試験	30			14				
		精神臨床看護の実際											16			
		医療安全	1	30		1		1試験	30	30						
		看護管理	1	30			1	1試験	30			10				
		看護管理											20			
野	看護の統合と実践	災害看護と国際協力	1	30			1	1試験	30			24				
		災害看護と国際協力										6				
		臨床看護の実際	1	30			1	1試験	30	30						

※ 試験及び評定に関して、「履修規程」をよく参照すること。

※ *は、「履修規程」Ⅱ. 学科単位修得【受験資格】及び【成績及び評価について】の項を参照すること。

※「R」はレポート提出がある科目。詳細はシラバスで確認すること。

* 実務経験のある教員

基礎分野

科目名	情報科学	担当講師	*江川 明美
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	本科目では,看護の世界における「情報の活かし方」と,それに伴い必要になる「倫理観」について理解を深める。それらを踏まえて,情報処理の中でも特に「データの収集と集計」に重点をおいて学習することで ICT を活用できる基礎的能力を養う内容とする。		
到達目標	1. 情報とは何かを知り,その「活かし方と守り方」をだれかに説明ができるようになる。 2. コンピュータのしくみや利用方法を学ぶ。 3. 情報収集や研究活動のための「調査方法」と「集計・分析」の基礎を学び,集めたデータの考察ができるようになる。		
関連科目	日本語表現法 看護研究 フィジカルアセスメント 看護過程と看護臨床判断		
CP・DP との関連	CP5. 最新知識・技術を自ら学び続け,看護の質の向上を図る能力を身につける機会を提供する。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し,共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2. 科学を探究し,批判的で論理的な思考ができ,適切な判断力を身につけている。 DP5. 看護師としての使命感を持ち,時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。 DP6. 変化を恐れず,新しい問題へ対応するために創意工夫できる力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	授業の概要 / 情報の定義と特徴	講義
	2	社会と情報 / 情報化とデジタルなツール	講義
	3	医療と情報 / 病院情報システム / 医療とインターネット	講義
	4	医療における情報システム / 地域における ICT 活用 コンピュータリテラシーとセキュリティ	講義
	5	情報と倫理 / ネット時代のソーシャル・リテラシー	講義
	6	質問紙調査によるデータ収集 / 調査とは -アンケートのコツ- / 集計・分析・考察① -分析の視点-	講義
	7	Excel による統計解析① Excel の基本操作	講義・演習
	8	Excel による統計解析② 集計・分析・考察② -分析の視点-	講義・演習
	9	Excel による統計解析③ アンケートのコツ 結果の記述と考察	講義・演習
	10	集計・分析・考察④ -クロス集計の記述-代表値を知ろう-	講義・演習
	11	集計・分析・考察⑤ -回帰直線とグラフ-	講義・演習
	12	模擬問題	講義・演習
	13	文字情報の整理 Word の使い方 -論文とはなにか-	講義・演習
	14	情報の発表とコミュニケーション	講義・演習
15	総括 / 単位認定試験	講義・試験	
成績評価	単位認定試験 (100%)		
履修上の アドバイス	コンピュータ (Excel) を用いた演習を行うことがあるため,Excel の基礎的な操作方法を理解していることが望ましいです。Excel を用いた演習は,講義時間外にも各自で取り組むよう心掛けてください。質問がある場合は担当教員までメールで問い合わせてください。		
テキスト	「看護情報学」著者 中山和弘他 株式会社 医学書院		
参考文献	随時紹介		

*実務経験のある教員

科目名	日本語表現法	担当講師	錢坪 玲子
単位数 (時間数)	1 (15)	配当年次	1
科目の概要	論理的に考え、事実や自分の考えを正確に相手に伝えることは、医療チームの一員としての任務を果たすために重要なことである。本科目は当たり前で使用している日本語というツール(道具)の使い方を再確認し、「読む・書く・話す・聞く」の能力を向上させ、社会人・専門職業人として必要なコミュニケーション能力の基礎を身につけることを目的に設定する。さらにレポートや論文などの論理的な文章を精選できるための能力を向上させ、3年間の学ぶ力の基礎となることもめざす。		
到達目標	日本語を総合的に学び、読解する力や論理的に考える力、表現する力を身につける。		
関連科目	情報科学 医療英語 看護研究 臨地実習		
CP・DPとの関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 CP4. 保健・医療・福祉における専門職業人として行動するために、教科及び教科外活動を通じて社会人に求められる基礎的能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP3. 主体性をもちながら、他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	漢字かな交じり文 句読点の働き 和語・漢語・外来語の使い分け	講義
	2	語彙の体系 推敲 話し言葉と書き言葉	講義
	3	適切な言葉づかい 手紙 E-mail	講義
	4	あいさつと自己紹介 改まった話し方 敬語の役割	講義
	5	敬語の使用 主張・意見 反論の仕方	講義
	6	アサーション 相手の話を聞く わかりやすい表現での伝え方	講義・演習
	7	言葉の定義・説明 引用(根拠と出典) 表やグラフ	講義・演習
	8	ふりかえり	講義・演習
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	毎回、課題が出されます。事前課題を準備して講義に臨んでください。		
テキスト	日本語表現&コミュニケーション 実教出版株式会社 日本語表現法 ナカニシヤ出版		
参考文献	随時紹介		

科目名	看護のための物理学	担当講師	福山 隆雄
単位数 (時間数)	1 (15)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	本科目は医療、看護の現象を物理学的視点から理解することによって EBN,EBP への導入を目指す。看護の現象を物理的に理解すると共に,科学的に考える姿勢を身につけることをねらいとする。		
到達目標	1. 看護の現場において使われている物理の法則について理解できる。 2. 科学的根拠をもって看護を提供するための,物理学の基礎知識を修得する。		
関連科目	基礎看護技術 I ~ V		
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠をもって看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し, 批判的で論理的な思考ができ, 適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた, 確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	看護の中の物理学	講義
	2	運動と力①物体の運動	講義
	3	運動と力②力と加速度, つり合い, モーメント	講義
	4	運動と力③圧力	講義
	5	熱	講義
	6	音と光	講義
	7	電気と磁気・放射線	講義
	8	単位認定試験	試験
成績評価	単位認定試験(授業資料持ち込み可) + ミニレポート(計 100%)		
履修上の アドバイス	予習・復習を行い, 不明な点はそのままにせず, 解決していきましょう。 毎回授業の中でミニレポートを提出してもらいます。評価対象なので、休まず出席しましょう。		
テキスト	系統学看護学講座 基礎分野 物理学 医学書院		
参考文献	随時紹介		

科目名	教育学	担当講師	菅原 良子
単位数 (時間数)	1 (15)	配当年次	1
科目の概要	看護は,対象の健康の保持増進,疾病の予防,健康の回復を図る為の教育的役割を持つ。本科目はこの看護の教育的役割に着目し,人間形成における教育の機能の理解や教育学的知識の修得を目標とし,効果的な教育・指導を行うことができるよう,教育の基本的な考え方や方法・評価について学ぶ科目とする。また学習者自身へ成人学習者としての動機づけとなることも期待する。		
到達目標	看護の教育的役割を果たすために,教育の概念,教育の目的,教育の方法,教育の評価,教育をめぐる社会的問題について理解する。		
関連科目	生涯学習論 健康教育論 基礎看護技術 I		
CP・DPとの関連	CP5. 最新知識・技術を自ら学び続け,看護の質の向上を図る能力を身につける機会を提供する。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し,共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP3. 主体性をもちながら,他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。 DP5. 看護師としての使命感を持ち,時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。 DP6. 変化を恐れず,新しい問題へ対応するために創意工夫できる力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	教育とは何か	講義
	2	人の発達と教育	講義
	3	社会変動と教育	講義
	4	教育と養護(教育の原点としての養護)	講義
	5	発達(教育を受けて成長する)	講義
	6	キャリア教育とジェンダー	講義
	7	特別支援教育	講義
	8	教育の課題	講義
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	主体的に学び続ける姿勢をもって,講義に参加してください。		
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院		
参考文献	随時紹介		

科目名	家族社会学	担当講師	吉野 浩司
単位数 (時間数)	1 (15)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	高度経済成長期以降,日本の地域社会や家族は大きく変化した。本科目は人びとのコミュニケーションや相互作用に注目し,人びとが社会をつくり,また社会に影響される現象を説明する社会学を基本にして,家族を理解する科目である。誰もが分かっているつもり家族を問い直すことで,現代社会における家族や地域社会の実相について考察する科目として設定する。		
到達目標	看護の対象である家族を支援するために,現代家族の特徴と多様性を理解する。 1.家族社会学の基礎的知識や視点を身につける。 2.現代家族をめぐる諸問題とその背景等について理解する。 3.家族を相対化し,多様な家族を支援するための知識を獲得する。		
関連科目	人間関係論 看護学概論 地域・在宅看護概論		
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し, 共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP3. 主体性をもちながら, 他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	家族とは何か	講義
	2	親子関係／夫婦関係	講義
	3	結婚の多様化／配偶者選択と結婚	講義
	4	生殖補助医療と家族	講義
	5	少子化と子育て支援／児童虐待と里親制度	講義
	6	就業と家族	講義
	7	高齢者家族の諸問題	講義
	8	単位認定試験	試験
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	自分自身の中にある家族観を積極的に問い直す機会にしてほしい。		
テキスト	園井ゆり・浅利宙・倉重加代編『第4版 家族社会学 基礎と応用』九州大学出版会		
参考文献	講義内で適宜示す		

科目名	心理学	担当講師	柳田 多聞
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	医療従事者と患者・家族との間には人間味のある相互に信頼し合える人間関係を成立することが求められている。望ましい信頼関係は、患者の心理の理解と医療従事者の自己理解・自己統制によって成立する。そこで本科目では、より良い人間関係の基盤を形成することを目的に、人間の心や行動、自己及び他者の心理を学び、人間関係形成のための対象理解及びコミュニケーション技術の向上にむけた学習を行う。		
到達目標	人の行動や心情に対して、素朴な印象や根拠のない俗説で判断する態度を排除し、科学的な分析を重視しつつ、行動や心情の背景を深く探究しようと努める態度を身につける。		
関連科目	人間関係論 看護学概論 看護コミュニケーション		
CP・DPとの関連	CP1. 生命と個人の尊厳を守り、倫理的ジレンマを克服するコンピテンシーを身につけるための機会を提供する。 CP2. 他者と心と力を合わせ、共有した目標の達成に向け、今為すべきことを見つけ、真剣に取り組む体験を提供する DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	感覚(情報の選択的取り入れ)	講義
	2	知覚(情報の生態学的解釈)	講義
	3	注意・記憶(情報の活用)	講義
	4	思考・言語(情報の創造)	講義
	5	学習・行動(行動の変容)	講義
	6	動機・欲求(行動を推し進める力)	講義
	7	感情(体験を価値づける力)	講義
	8	社会・集団(自己と他者の関わり)	講義
	9	乳児期の発達(基本的信頼と能動的活動)	講義
	10	幼児期の発達(自発性と自律性)	講義
	11	学童期の発達(自我と劣等感)	講義
	12	青年期(思春期)の発達(自己同一性の模索)	講義
	13	成年期の発達(パートナーシップ)	講義
	14	壮年期の発達(自己実現)／老年期の発達(老いの受容)	講義
15	終末期のケア / 単位認定試験	講義・試験	
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	人間の行動や心情に対して、ふだんから積極的な関心・問題意識を持ち、授業に取り上げた話題を各自の日常生活に当てはめて考えるようにしましょう。		
テキスト	系統看護学講座 基礎分野「心理学」第6版 医学書院		
参考文献	随時紹介		

科目名	人間関係論	担当講師	*土居 隆子
単位数 (時間数)	1 (30)	配当年次	1
科目の概要	看護行為は人と人の関係の上に成り立つ。看護者は専門性をチーム医療の中での医師・看護職・事務・その他専門職との関わり,看護行為では患者・家族などとの関わりの中で発揮し,同時に生活者として家庭・地域と関わる力,コミュニケーション能力が求められる。本講義では人と人が関係し合いながら交流する時,そこで起きている事象をコミュニケーション理論と認知の仕方を通じて理解する知識と技術を学ぶ。		
到達目標	人間関係のあり方を,以下の3段階で講義と演習を通じて学んでいく。 ①自分を知る(自己理解) ②人とコミュニケーションする(他者理解)力をつける ③複数の人間関係をつくる。(相互交流・共同体感覚)チームワークが出来るようになる		
関連科目	心理学 看護コミュニケーション		
CP・DPとの関連	CP1. 生命と個人の尊厳を守り,倫理的ジレンマを克服するコンピテンシーを身につけるための機会を提供する。 CP2. 他者と心と力を合わせ,共有した目標の達成に向け,今為すべきことを見つけ,真剣に取り組む体験を提供する。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し,共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP3. 主体性をもちながら,他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	人間関係総論 本講義の目的	講義
	2・3	他者と交わる・人間関係を感じる	講義・演習
	4	自分を知る エゴグラムで自己理解を深める	講義・演習
	5	自己概念	講義・演習
	6	価値観とは	講義・演習
	7	思い込みについて	講義・演習
	8	コミュニケーション	講義・演習
	9	話す・聞く・聴く・訊く	講義・演習
	10	サインとしての「からだ」	講義・演習
	11	感情表出	講義・演習
	12	葛藤とのつきあい方	講義・演習
	13	自己開示とフィードバック	講義・演習
	14	ストレスマネジメント しなやかな人間関係を支える	講義・演習
	15	職場の人間関係(ハラスメントを考える)	講義
成績評価	単位認定試験(自筆ノートと講義資料・レポート持ち込み可)(70%)と講義時のレポート(30%)		
履修上の アドバイス	テキストに沿って,実際にワークを行いながら自分自身を理解し,他者とのかかわりの癖を見つけていきます。講義開始前に自分の日ごろの人間関係について考えてきてください。		
テキスト	人間関係づくりトレーニング 金子書房		
参考文献	随時紹介		

*実務経験のある教員

科目名	健康と運動	担当講師	阿南 祐也 30 時間 (内演習 10 時間:平葭 小弓)
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	運動は、生活習慣に起因する疾病を予防し、健康の回復を促進させる。健康の維持・増進・生活習慣病等の予防には、運動・休養と睡眠が不可欠であり、看護師は、健康教育への働きかけが期待されている。本教科では、様々な疾患の予防・改善と、健康の維持のために必要となる運動について理解する。また、楽しく健康づくりを進めていくプログラム作成や指導方法、健康づくりに結びつくレクリエーションについて学ぶ。		
到達目標	健康を維持増進するための運動の意義を理解し、健康と体力を高める基礎的理論と実践力を身につける。		
関連科目	栄養と健康 看護学概論 健康教育論		
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するため必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP3. 主体性をもちながら、他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	現代社会の健康づくりの現状と運動	講義
	2	人体の構造と身体活動	講義
	3	筋収縮の様式とスポーツトレーニング	講義
	4	ライフサイクルと運動	講義
	5	生活習慣病と運動	講義
	6	食生活と運動	講義
	7	特定保健指導に基づく運動指導	講義
	8	ダイエットと運動	講義
	9	効果的なウォーキング	講義
	10	健康の維持増進のための運動①有酸素運動(ウォーキング)	講義・演習
	11	健康の維持増進のための運動②筋力トレーニング	講義・演習
	12	健康の維持増進のための運動③ストレッチ(柔軟性)	講義・演習
	13	健康の維持増進のための運動④様々な体操	講義・演習
	14	健康の維持増進のための運動⑤サーキットトレーニング	講義・演習
15	まとめ / 単位認定試験	試験	
成績評価	授業態度(50%) 単位認定試験(50%)		
履修上の アドバイス	実際に体を動かしながら、健康を維持促進する運動を理解します。		
テキスト	講師自作資料		
参考文献	随時紹介		

科目名	異文化コミュニケーション	担当講師	*池田 祐香
単位数 (時間数)	1 (15)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	<p>本科目で取り扱う「文化」は、国家や民族集団の文化だけではなく、世代、ジェンダー、職種などの異文化も含んでいる。本科目は異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力を育成するために設定する。具体的には、価値観や考え方の違いに気づき、多様性を知ること、異なる文化背景を持つ人との交流、コミュニケーションを図るきっかけとする。また、在日外国人に対する医療や看護の実際を知る機会としたい。</p>		
到達目標	<p>言語や文化、価値を乗り越えて、関係を構築するためのコミュニケーション能力と新しい価値を創造する力を身につける。</p>		
関連科目	医療英語 家族社会学 看護コミュニケーション 災害看護と国際協力		
CP・DP との関連	<p>CP1. 生命と個人の尊厳を守り、倫理的ジレンマを克服するコンピテンシーを身につけるための機会を提供する。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP3. 主体性をもちながら、他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。</p>		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	異文化コミュニケーションの基礎概念	講義
	2	文化とコミュニケーション	講義
	3	自己とアイデンティティ	講義
	4	異文化コミュニケーションの障壁	講義
	5	言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション	講義
	6	カルチャーショックと適応	講義
	7	看護と異文化コミュニケーション	講義
	8	単位認定試験	試験
成績評価	授業態度(30%) 単位認定試験(70%)		
履修上の アドバイス	<p>異なる文化を持つ人とのコミュニケーション能力は、医療従事者としてだけでなく、多文化共生社会に生きる一人として欠かせないスキルです。学びを深め、多様な文化背景を持つ人に寄り添える人になりましょう。授業では、あらゆるアクティビティを行います。実生活や医療の現場と結びつけて取り組んでほしいと思います。折に触れて、英語を用いたワークも行います。</p>		
テキスト	石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人(2013)『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション—多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣		
参考文献	波平恵美子編(2021)『文化人類学』(系統看護学講座 基礎分野)医学書院 八島智子・久保田真弓(2012)『異文化コミュニケーション論 グローバル・マインドとローカル・アフェクト』松柏社		

*実務経験のある教員

專門基礎分野

科目名	解剖生理学 I	担当講師	*高橋美智子
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	人体の構造と機能について系統的に各器官の位置関係,形状,内部構造および機能,人体における役割を学ぶ。		
到達目標	1.解剖学的用語について理解する。 2.生命と恒常性(ホメオスタシス)について理解する。 3.呼吸器・血液・循環器系の構造と機能について理解する。 4.骨・筋系の構造と機能について理解する。 5.消化器系の構造と機能について理解する。		
関連科目	病理学 疾病と治療論 I～VI 看護形態機能学 I・II		
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し, 批判的で論理的な思考ができ, 適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた, 確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1・2回	人体の構造と器官	講義
		細胞と組織	講義
	3回	呼吸器の構造	講義
	4回	呼吸器のしくみ	講義
	5・6回	血液の構造と機能	講義
		循環器系の構造	講義
		心臓の構造と機能	講義
	7・8回	末梢循環系の構造	講義
		血液循環の調節、リンパとリンパ管	講義
	9・10回	骨格と筋①骨の連絡と骨格筋	講義
		骨格と筋②体幹	講義
	11・12回	骨格と筋③上・下肢・頭部	講義
		骨格と筋④筋の収縮・運動と代謝	講義
13・14回	口・咽頭・食道の構造と機能 腹部消化管の構造と機能	講義	
15回	膵・肝・胆及び腹膜の構造と機能①	講義	
	単位認定試験	試験	
成績評価	単位認定試験 (100%)は解剖生理学Ⅱと同日に実施予定		
履修上の アドバイス	自らの日常生活行動と関連させて理解していきましょう。 予習より復習が大事です。理解できない時は質問してください。		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 医学書院		
参考文献	ネッター解剖学アトラス 南江堂		

*実務経験のある教員

科目名	解剖生理学Ⅱ	担当講師	*高橋美智子
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	人体の構造と機能について系統的に各器官の位置関係、形状、内部構造、および機能、人体における役割を学ぶ。		
到達目標	1.代謝系の構造と機能について理解する。 2.腎・泌尿器系の構造と機能について理解する。 3.内分泌系の構造と機能について理解する。 4.脳・神経系の構造と機能について理解する。 5.感覚系・免疫系の構造と機能について理解する。 6.生殖と発生及び老化について理解する。		
関連科目	病理学 疾病と治療論Ⅰ～Ⅵ 看護形態機能学Ⅰ・Ⅱ		
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1回	膵・肝・胆及び腹膜の構造と機能②	講義
	2・3回	体液の調節と尿の生成①腎臓	講義
		体液の調節と尿の生成②排尿路	講義
	4・5回	体液の調節と尿の生成③体液の調節	講義
		内臓機能の調節①自律神経	講義
	6・7回	内臓機能の調節②内分泌系	講義
		内臓機能の調節③ホルモン分泌の調整	講義
	8・9回	内臓機能の調節④ホルモンによる調節の実際	講義
		神経系の構造と機能	講義
	10・11回	脊髄と脳の統合機能	講義
		感覚器(眼・耳・痛み)	講義
	12・13回	皮膚の構造と機能	講義
生体の防御機構と免疫		講義	
14・15回	体液とその調節	講義	
	生殖・発生と老化	講義	
	単位認定試験	試験	
成績評価	単位認定試験 (100%)は解剖生理学Ⅰと同日に実施予定		
履修上の アドバイス	自らの日常生活行動と関連させて理解していきましょう。 予習より復習が大事です。理解できない時は質問してください。		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 医学書院		
参考文献	ネッター解剖学アトラス 南江堂		

*実務経験のある教員

科目名	看護形態機能学 I	担当講師	*中野 真由美 15 時間 *片山 小百合 15 時間
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	本科目は,医学の枠組みのみならず,生活者としての対象を理解するために,看護学の視点で系統的に人体の構造と機能を学ぶ。医学的枠組みの解剖生理学を看護学視点でとらえなおすことをねらいとする。		
到達目標	1.日常生活行動をするときに,どのように体を使って暮らしているのか理解できる。 2.生きていることを支える日常生活行動から「人体の構造と機能」について理解できる。 3.日常生活行動を支える看護につながる体の仕組みを理解できる。		
関連科目	解剖生理学 I・II 看護形態機能学II 基礎看護技術 I～III フィジカルアセスメント		
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し,批判的で論理的な思考ができ,適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた, 確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	何のための生活行動か	演習・講義
	2	息をする	演習・講義
	3	動く、活動する①	演習・講義
	4	動く、活動する②	演習・講義
	5	お風呂に入る、身だしなみを整える	演習・講義
	6	食べる	演習・講義
	7	コミュニケーションをとる	演習・講義
	8	トイレに行く(排便・排尿)①	演習・講義
	9	トイレに行く(排便・排尿)②	演習・講義
	10	休息する、眠る、目覚める、思考する	演習・講義
	11	からだの内部を一定に保つこと:内部環境の恒常性	演習・講義
	12	恒常性維持のための流通機構	演習・講義
	13	恒常性維持のための調節機構	演習・講義
	14	性を営む	演習・講義
15	まとめ/単位認定試験	講義・試験	
成績評価	単位認定試験(80%) 課題レポート及び小テスト(20%)		
履修上の アドバイス	事前学習課題を出すことがあります。提出期限を厳守しましょう。解剖生理学とつなげながら学習を深めましょう。		
テキスト	新体系 看護学全書 形態機能学 人体の構造と機能③ メヂカルフレンド社		
参考文献	看護形態機能学第4版、看護形態機能学ワークブック 日本看護協会出版会		

*実務経験のある教員

科目名	看護生化学	担当講師	*後藤 信治 *今里 和義	20 時間 10 時間
単位数 (時間数)	1 (30)	配当年次	1	
科目の概要	生化学とは生体を構成している構成成分を化学的物質としてとらえ,それらによる化学反応を取り扱う学問である。すなわち,化学の視点から生命を解析する。生体を構成する物質の構造・代謝・機能及び異常を分子レベルでとらえることは,疾病や治療,処置の理解につながる。そこで本科目は,生命活動を営むための体内物質の特徴と代謝について学び,看護の根拠を理解する。また臨床検査によって体の構造や機能の何が明らかになるのか理解する。			
到達目標	人間が生命活動を営むために必要な物質とその代謝について理解する。			
関連科目	解剖生理学 I・II 看護形態機能学 I・II			
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し, 批判的で論理的な思考ができ, 適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた, 確かな看護技術力を身につけている。			
授業計画	回	学習内容	方法	
	1	細胞の構造と性質	講義	
	2	タンパク質の構造と機能、代謝の基礎と酵素・補酵素	講義	
	3	糖質の構造と機能	講義	
	4	糖質代謝	講義	
	5	脂質の構造と機能	講義	
	6	脂質代謝	講義	
	7	タンパク質の代謝	講義	
	8	遺伝子と核酸	講義	
	9	遺伝子の複製・修復・組換え	講義	
	10	転写と翻訳	講義	
	11	臨床検査の意味と解釈①臨床検査の種類 一般検査	講義	
	12	臨床検査の意味と解釈②血液学的検査	講義	
	13	臨床検査の意味と解釈③化学検査	講義	
	14	臨床検査の意味と解釈⑤内分泌学的検査	講義	
15	臨床検査の意味と解釈④免疫・血清学的検査	講義		
成績評価	単位認定試験(100%)			
履修上の アドバイス	予習復習が大切です。わからないことは,すぐに解決するように,質問してください。			
テキスト	系統看護講座 専門分野 生化学 医学書院(仮) 系統看護講座 別巻 臨床検査 医学書院			
参考文献	随時紹介			

*実務経験のある教員

科目名	栄養と健康	担当講師	*河辺 千鶴子
単位数 (時間数)	1 (15)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	人の栄養なくして生きていくことはできない。そこで、どのような健康状態にある人も生活する人として対象をとらえ、栄養学的に栄養状態をアセスメントしたり、食生活に関する相談・指導を行ったりするために栄養学の基礎を学ぶ。さらにライフステージ別に健全な成長や疾病の予防、健康の回復に関する知識を修得する。		
到達目標	人間にとっての栄養の意義を学び、食事療法の基本を理解する。		
関連科目	健康と運動 健康教育論 看護生化学		
CP・DPとの関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	看護と栄養	講義
	2	栄養素の種類と働き	講義
	3	栄養素の消化と吸収	講義
	4	エネルギー代謝	講義
	5	食品に含まれる栄養素	講義
	6	栄養アセスメントと栄養状態の評価	講義
	7	ライフステージと栄養／チームで取り組む栄養管理	講義
	8	単位認定試験	試験
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	普段何気なく口にしている食品に関心を向け、適切な食生活とは何かを考える機会にしていましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学 医学書院		
参考文献	随時紹介		

*実務経験のある教員

科目名	病理学	担当講師	* 宇賀 達也
単位数 (時間数)	1 (15)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	<p>本科目は、病気の原因・発生機序・病態に共通にみられる特徴について学ぶ科目である。 病的な状態とはどのような状態か、何が原因かなど、疾病の成り立ちの基礎知識を学び、正常な人間の身体が疾病によりどのような変化や影響があるのかを学ぶ。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.細胞・組織の損傷と修復、炎症について理解する。 2.感染の成立と感染症の発病及び治療・予防について理解する。 3.循環障害・代謝障害のメカニズムについて理解する。 4.先天異常と遺伝性疾患について理解する。 5.腫瘍発生の病理と診断治療について理解する。 6.老化のメカニズムについて理解する。 		
関連科目	解剖生理学 I・II 疾病の成り立ちと促進 I～VI		
CP・DP との関連	<p>CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。</p> <p>DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。</p> <p>DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。</p>		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	細胞・組織の損傷と修復、炎症	講義
	2	免疫・移植と再生医療／感染症	講義
	3	循環障害	講義
	4	代謝障害	講義
	5	老化と死	講義
	6	先天異常と遺伝性疾患	講義
	7	腫瘍	講義
	8	単位認定試験	試験
成績評価	単位認定試験 (100%)		
履修上の アドバイス	本科目では病理学の専門用語がたくさん出てきます。今後さまざまな病気の看護を学んでいくうえでとても重要となります。		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院		
参考文献	随時紹介		

*実務経験のある教員

*実務経験のある教員

科目名	治療総論	担当講師	* 福田 浩敏	15時間
単位数 (時間数)	1 (15)テスト含む	配当年次	1	
科目の概要	病気を診断し,治療方針を決定するために,臨床検査は欠かすことができない。治療は医師の診断のもとに目的をもって行われる。治療や検査を受ける対象へ適切な看護を行うためには,検査・治療の目的や生体の反応を理解しておく必要がある。本科目は,医療における診断から治療の流れを理解し,様々な検査や治療法について学ぶ。			
到達目標	医療における診療の流れを学ぶとともに,看護に必要な治療や検査の意義や目的を理解する。			
関連科目	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 病理学 薬理学 基礎看護技術Ⅳ・Ⅴ			
CP・DPとの関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し,批判的で論理的な思考ができ,適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた,確かな看護技術力を身につけている。			
授業計画	回	学習内容		方法
	1	診断の流れ 検査・治療の選択		講義
	2	様々な内科的治療法①薬物・食事・運動・リハビリテーション		講義
	3	様々な内科的治療法②低侵襲治療法		講義
	4	画像診断①X線,CT・MRI,超音波		講義
	5	核医学と放射線治療		講義
	6	画像診断②IVR/血管造影		講義
	7	治療と看護/まとめ		講義
	8	単位認定試験		試験
成績評価	単位認定試験(100%)			
履修上のアドバイス	解剖生理学を関連させて,学習すると理解が深まります。			
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院			
参考文献	新体系看護学全書 別巻 治療法概説 メヂカルフレンド社			

科目名	疾病と治療論 I	担当講師	*福島 喜代康 :呼吸器 16時間 *岸川孝之 :免疫 8時間 *松本 恵太 :感染 6時間
単位数 (時間数)	1(30)	配当年次	1
科目の概要	看護実践では、自覚症状や身体所見と関連した病態生理学的知識を基に、機能の不調がなぜ起こり、どのように現れるのかを理解することが重要である。本科目は、器官系統別に病気の原理や成り立ちを学び、症状や検査・治療の意義や目的について学ぶ。		
到達目標	呼吸器およびアレルギーと自己免疫疾病、感染症をもつ人々への個別的な看護を展開するために、様々な疾病がもたらす身体内部の変化(病態)や検査・治療を理解する。		
関連科目	解剖生理学 I・II 治療総論 病理学 薬理学		
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し、批判的で理論的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	呼吸器 (福田)		
	1	呼吸器症状とその病態生理(自覚症状と他覚症状)	講義
	2	血液検査、画像検査、呼吸機能検査	講義
	3	治療・処置(吸入療法、酸素療法、人工呼吸療法)	講義
	4	疾患の理解①(感染症、間質性肺炎)	講義
	5	疾患の理解②(気道疾患、肺循環疾患、呼吸不全)	講義
	6	疾患の理解③(呼吸調節に関する疾患)	講義
	7	疾患の理解④(肺腫瘍)	講義
	8	疾患の理解⑤(肺・肺血管の形成異常、胸膜・縦郭・横隔膜の疾患)	講義
	免疫 (岸川)		
	1	アレルギー、免疫疾患と治療	講義
	2	症状と疾患の理解①(アレルギー疾患)	講義
	3	症状と疾患の理解②(自己免疫性疾患、関節リウマチほか)	講義
	4	症状と疾患の理解③(全身性エリテマトーデスほか)	講義
	感染(松本)		
	1	感染症とは	講義
	2	検査・診断・治療	講義
	3	疾患の理解	講義
	成績評価	単位認定試験(100%)	
履修上の アドバイス	呼吸器試験、免疫疾患、感染症疾患の3つの試験に合格することが単位認定の条件です。各試験の受験資格は、呼吸器疾患、免疫疾患、感染症疾患の各々の時間数の 2/3 以上の出席とします。解剖生理学の復習をして授業に参加しましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症 医学書院		
参考文献	生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖と生理第3版		

*実務経験のある教員

科目名	疾病と治療論Ⅱ	担当講師	*岸川孝之 : 血液造血器 *満岡 渉 : 循環器	10 時間 20 時間	
単位数 (時間数)	1(30)	配当年次	1		
科目の概要	看護実践では,自覚症状や身体所見と関連した病態生理学的知識を基に,機能の不調がなぜ起こり,どのように現れるのかを理解することが重要である。本科目は,器官系統別に病気の原理や成り立ちを学び,症状や検査・治療の意義や目的について学ぶ。				
到達目標	血液造血器および循環器の疾病を持つ人々への個別的な看護を展開するために,様々な疾病がもたらす身体内部の変化(病態)や検査・治療を理解する。				
関連科目	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 治療総論 病理学 薬理学				
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し,批判的で論理的な思考ができ,適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた, 確かな看護技術力を身につけている。				
授業計画	回	学習内容		方法	
	血液造血器 (岸川)				
	1	検査・診断と症候		講義	
	2	血球の異常		講義	
	3	白血病の理解		講義	
	4	リンパ腫,骨髄腫の理解		講義	
	5	出血性疾患		講義	
	循環器 (満岡)				
	1	循環器の症状		講義	
	2	検査(心電図・胸部 X 線・心臓カテーテル法等)の理解		講義	
	3	不整脈		講義	
	4	血圧の異常		講義	
	5	虚血性心疾患		講義	
	6	心不全		講義	
7	先天性心疾患		講義		
8	心筋症他		講義		
9	薬物療法,心臓カテーテル治療,		講義		
10	外科的治療法		講義		
成績評価	単位認定試験(100%)				
履修上の アドバイス	血液造血器試験,循環器試験の2つの試験に合格することが単位認定の条件です。各試験の受験資格は,血液造血器,循環器の各々の時間数の 2/3 以上の出席とします。解剖生理学の復習をして授業に参加しましょう。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器 医学書院				
参考文献	生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖と生理第3版				

*実務経験のある教員

科目名	疾病と治療論Ⅲ	担当講師	*北島知夫 : 消化器 *宮本俊吾 : 手術と麻酔・救急 *納富 拓 : 口腔・歯科	12 時間 12 時間 6 時間	
単位数 (時間数)	1(30)	配当年次	1		
科目の概要	看護実践では,自覚症状や身体所見と関連した病態生理学的知識を基に,機能の不調がなぜ起こり,どのように現れるのかを理解することが重要である。本科目は,器官系統別に病気の原理や成り立ちを学び,症状や検査・治療の意義や目的について学ぶ。				
到達目標	消化器の疾病を持つ人々,救急治療が必要な人々,麻酔を受ける人々への個別的な看護を展開するために,様々な疾病をもたらす身体内部の変化(病態)や検査・治療を理解する。				
関連科目	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 治療総論 病理学 薬理学				
CP・DPとの関連	CP1. 生命と個人の尊厳を守り,倫理的ジレンマを克服するコンピテンシーを身につけるための機会を提供する。 CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し,批判的で論理的な思考ができ,適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた,確かな看護技術力を身につけている。				
授業計画	回	学習内容		方法	
	消化器 (北島)				
	1	消化器症状・徴候とその病態生理		講義	
	2	検査		講義	
	3	治療・処置(薬物療法,放射線療法)		講義	
	4	疾患の理解①(口腔,食道,胃十二指腸,腸及び腹膜の疾患)		講義	
	5	疾患の理解②(肝臓,胆管,胆嚢の疾患)		講義	
	6	疾患の理解③(膵臓の疾患,急性腹症,腹部外傷)		講義	
	手術と麻酔・救急 (宮本)				
	1	消化器の外科的治療法①		講義	
	2	消化器の外科的治療法②		講義	
	3	手術と麻酔			
	4	外科的医療の基礎(手術侵襲の生体反応ほか)		講義	
	5	救急処置法の実際		講義	
	6	救急看護の実際		講義	
	歯・口腔 (納富)				
	1	歯・口腔の構造と機能		講義	
	2	歯・口腔の症状と病態生理		講義	
3	歯・口腔の疾患と診療		講義		
成績評価	単位認定試験(100%)				
履修上の アドバイス	解剖生理学の復習をして授業に参加しましょう。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[15] 歯・口腔 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院				
参考文献	生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖と生理第3版				

*実務経験のある教員

科目名	薬理学	担当講師	*池田 理恵
単位数 (時間数)	1(30) テスト含む	配当年次	1
科目の概要	薬物療法への援助が、正確・安全に行える為には、薬物の特性や作用機序、人体への影響および薬剤の正しい管理について知識を持つことが必要である。医療事故の予防に役立てるためにも、本科目では臨床で活用できる薬物に関する知識を学ぶ内容とする。		
到達目標	薬剤に関する基礎的知識を学んだ上で、薬剤が人体に作用する仕組みを理解し、薬物療法を受ける対象の看護に活かす。また、薬物の特性・作用機序・人体への影響および薬物の管理について理解する。		
関連科目	疾病と治療論 I～VI 看護生化学 成人臨床看護の実際 I～IV		
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	薬理学総論①(作用・副作用の機序)	講義
	2	薬理学総論②(吸収と代謝)	講義
	3	抗感染症薬	講義
	4	抗がん薬, 免疫治療薬	講義
	5	抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義
	6	末梢での神経活動に作用する薬物	講義
	7	中枢神経に作用する薬物①	講義
	8	中枢神経に作用する薬物②	講義
	9	心臓・血管系に作用する薬物①	講義
	10	心臓・血管系に作用する薬物②	講義
	11	呼吸・消化器・生殖器系に作用する薬物	講義
	12	物質代謝に作用する薬物	講義
	13	皮膚科用薬・眼科用薬, 救急の際に使用される薬物	講義
	14	漢方薬, 消毒薬	講義
15	輸液・輸血 / 単位認定試験	講義・試験	
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	講義終了後に小テストが配信されます。復習に活用してください。		
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学 医学書院		
参考文献	随時紹介		

*実務経験のある教員

科目名	微生物と人体	担当講師	*吉川 大介 *犬尾 元 *松本 恵太 *山口 友子	16 時間 4 時間 4 時間 6 時間	
単位数 (時間数)	1(30)	配当年次	1		
科目の概要	院内感染や新興感染症などの感染症に適切な予防策を講じるために,医療従事者として微生物に対する基本的な知識を持つ必要がある。本科目では,臨床で活用できる微生物学に関する知識を学ぶ。				
到達目標	感染症を引き起こす微生物のライフサイクルと病気を起こすメカニズム並びに生体の防御反応を理解する。医療現場で活用できる感染予防及び感染症の看護の基礎知識について理解する。				
関連科目	薬理学	疾病と治療論 I	看護と栄養	看護生化学	
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し, 批判的で論理的な思考ができ, 適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた, 確かな看護技術力を身につけている。				
授業計画	回	学習内容		方法	
	1	微生物と微生物学, 細菌の性質①		講義	
	2	細菌の性質②		講義	
	3	真菌, 原虫, ウイルスの性質		講義	
	4	感染と感染症①	(吉川)	講義	
	5	感染と感染症②, 自然免疫		講義	
	6	感染に対する生体防御機構, 自然免疫, 獲得免疫		講義	
	7	感染源・感染経路からみた感染症, 検査と診断		講義	
	8	感染症の現状と対策, 治療		講義	
	9	病原細菌と細菌感染症①	(松本)	講義	
	10	病原細菌と細菌感染症②	(松本)	講義	
	11	病原ウイルスとウイルス感染症①	}	講義	
	12	病原ウイルスとウイルス感染症②		(山口)	講義
	13	病原真菌と真菌感染症		講義	
	14	寄生虫と衛生動物①	(犬尾)	講義	
15	寄生虫と衛生動物②	(犬尾)	講義		
成績評価	単位認定試験(100%)				
履修上の アドバイス	感染症発生の動向に興味関心を持ちながら,授業に参加しましょう。				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[4]		微生物学 医学書院		
参考文献	病気がみえる vol. 6 免疫・膠原病・感染症 メディックメディア				

*実務経験のある教員

専門分野

科目名	看護学概論	担当講師	* 圓能寺貞子 10 時間 * 田中 伸子 20 時間
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	看護の概念を理解し,対象となる人間及びその生活をとらえることで,人々の健康保持増進に努める看護の目的・役割について学ぶ。また, 社会の変化に伴う看護の役割拡大について学ぶ。		
到達目標	1.看護とは何か, 看護師とは何をする人であるか理解する。 2.看護の対象を理解する。 3.看護の目的である健康を深く考察する。 4.看護の職業としての歴史やキャリア開発, 看護をめぐる制度やサービスとしての看護について学び, 看護とは何かについて自分の考えを深めることができる。 5.看護実践の基盤となる思考について理解し, クリティカルシンキング・看護研究・看護理論のつながりを説明できる。 6.看護の活動領域の広がりについて, 社会とのつながりを踏まえ理解する。		
関連科目	看護形態機能学 基礎看護技術 I 看護倫理 基礎看護学実習 I		
CP・DPとの関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し, 共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP5. 看護師としての使命感を持ち, 時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。 DP6. 変化を恐れず, 新しい問題へ対応するために創意工夫できる力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	授業がイッスン 看護を知る	講義
	2	看護の対象を理解する①	講義
	3	看護の対象を理解する②	講義
	4	健康について考える①	講義
	5	健康について考える②	講義
	6	看護の概念を深める①	講義
	7	看護の概念を深める②	演習
	8	看護の概念を深める③	講義・演習
	9	看護の概念を深める④	講義・演習
	10	看護の概念を深める⑤	講義
	11	看護実践の基盤を理解する①	講義
	12	看護実践の基盤を理解する②	講義・演習
	13	看護実践の基盤を理解する③	講義・演習
	14	看護の活動領域領域は広がる①	講義・演習
15	看護の活動領域は広がる② / 単位認定試験	講義・試験	
成績評価	単位認定試験(80%) 授業態度・小テスト・レポート(20%)		
履修上の アドバイス	講義終了後授業カードの提出を求めます。授業の内容から自分の考えを自分の言葉で述べる訓練をしていきましょう。参加型の授業では, 協同学習のスキルを身につけていきましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院		
参考文献	随時紹介します。		

*実務経験のある教員

科目名	看護コミュニケーション	担当講師	*後藤 富美子
単位数 (時間数)	1 (15)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	看護の場で看護師に求められるコミュニケーションには,一般的なコミュニケーションとは違った知識やスキル,一定のルールが必要となる。看護におけるコミュニケーションの重要性に気づき,患者・看護師間のコミュニケーションメッセージの意味や感情の理解を深める。また看護の対象だけではなく働く者同士の良好な人間関係の基盤づくりのためのコミュニケーションスキルも身につける。		
到達目標	1.コミュニケーションの特徴と看護におけるコミュニケーションの重要性を理解する。 2.コミュニケーションの構成要素とコミュニケーション過程を理解する。 3.コミュニケーションの基本的な方法について学び,実践することができる。		
関連科目	心理学 人間関係論 看護学概論 基礎看護技術 I 基礎看護学実習 I		
CP・DPとの関連	CP1. 生命と個人の尊厳を守り,倫理的ジレンマを克服するコンピテンシーを身につけるための機会を提供する。 CP2. 他者と心と力を合わせ,共有した目標の達成に向け,今為すべきことを見つけ,真剣に取り組む体験を提供する。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し,共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2. 科学を探究し,批判的で論理的な思考ができ,適切な判断力を身につけている。 DP3. 主体性をもちながら,他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた,確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	コミュニケーションの意義と目的	講義
	2	看護・医療におけるコミュニケーション	講義
	3	コミュニケーションの構成要素と成立過程	講義
	4	コミュニケーションの基本	講義
	5	効果的なコミュニケーションの実際	講義
	6	コミュニケーション障害への対応	講義
	7	看護の場面で用いたいコミュニケーションの基礎スキル①	演習
	8	単位認定試験	試験
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上のアドバイス	日常生活の中で行うコミュニケーションと学習した内容を意識して,学びを深めていきましょう。学校生活の中でコミュニケーション能力を身につけましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院		
参考文献	はじめての看護実習 看護コミュニケーション へるす出版		

*実務経験のある教員

科目名	看護倫理	担当講師	*田中 伸子 11時間 *徳永 陽子 4時間
単位数 (時間数)	1 (15)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	現代社会の構造は複雑であり,そこで生きる人々のニーズや価値観も多様化している。医療においても科学技術の発展により治療や検査は高度化・複雑化し,その選択肢も増えている。対象の置かれている状況や医療ニーズが多様化する中で,看護師が対象の権利を擁護し,対象の最善の利益を追求するためには判断に迷うケースも増えている。このような倫理的ジレンマが発生した時に,どのような解決方法があるのか考えることができる力を身につけるために本科目を設定する。看護倫理の歴史や基礎的知識を踏まえ,様々な事例を通して,倫理的ジレンマを克服する機会を体験する。		
到達目標	看護の倫理原則を理解し,看護者としての倫理的判断能力を身につける。		
関連科目	倫理学 哲学 医療と倫理 看護学概論		
CP・DPとの関連	CP1. 生命と個人の尊厳を守り,倫理的ジレンマを克服するコンピテンシーを身につけるための機会を提供する。 CP2. 他者と心と力を合わせ,共有した目標の達成に向け,今為すべきことを見つけ,真剣に取り組む体験を提供する。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し,共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2. 科学を探究し,批判的で論理的な思考ができ,適切な判断力を身につけている。 DP3. 主体性を持ちながら,他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた,確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	職業倫理としての看護倫理	講義
	2	医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理	講義
	3	倫理原則とケアの倫理	講義
	4	看護実践場面での倫理的ジレンマ	講義
	5	倫理的課題への取り組み	講義
	6	看護場面での倫理的問題① 治療の選択	講義
	7	看護場面での倫理的問題② 最善の利益	講義
	8	単位認定試験	試験
成績評価	単位認定試験 (50%) 課題レポート(50%)		
履修上のアドバイス	講義では,事例を取り上げ,ディスカッションの機会を作ります。積極的に考え,意見を述べるように準備をしてください。仲間の意見に耳を傾け,新しい価値観を発見していきましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院		
参考文献	随時紹介		

*実務経験のある教員

科目名	基礎看護技術 I	担当講師	* 田中 伸子 10 時間 * 吉野 千春 20 時間
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	エビデンスを基に各看護学に共通する看護技術を学ぶ。具体的には、バイタルサイン測定、感染予防対策、安全確保の技術、学習支援、苦痛の緩和・安楽確保、看護過程と記録である。単に方法や手順を学ぶのではなく、看護師として必要な判断力（問題解決能力・行動力）を身につけ、その判断に基づく介入および技術を適用できる能力を養うことをねらいとする。		
到達目標	各看護学に共通する看護技術を、エビデンスを基に修得する。 1.看護技術の考え方が理解できる。 2.バイタルサインの観察とアセスメントができる。 3.感染および感染の要因を理解し、その防御のための基礎知識と方法を理解できる。 4.安全確保の方法について理解できる。 5.看護における患者教育、健康教育の基本的な考え方が理解できる。 6.苦痛の緩和・安楽の方法について理解できる。 7.看護過程の展開と看護記録について理解できる。		
関連科目	看護学概論 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 疾病治療論Ⅰ～Ⅵ 薬理学 微生物と人体 看護コミュニケーション フィジカルアセスメント 基礎看護技術Ⅱ～Ⅴ		
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP3. 主体性をもちながら、他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。 DP5. 看護師としての使命感を持ち、時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	看護技術とは	講義
	2	バイタルサインの観察とアセスメント	講義
	3	バイタルサイン測定の実際(体温・呼吸・脈拍・血圧測定)	演習
	4		
	5	感染防止技術	講義
	6	感染防止技術の実際(日常的手洗い,無菌操作,ガウンテクニック)	演習
	7		
	8	安全管理の技術	講義
	9	安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	講義
	10	安楽確保の技術(安楽な体位の調整,巻法,リラクゼーション法)の実際	演習
	11		
	12	学習支援	講義
	13	記録と報告①	講義
	14	記録と報告②	講義
15	単位認定試験	試験	
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	これから学ぶ看護技術の土台となる科目です。技術の習得を目指すため個人演習など、主体的に取り組んでいきましょう。時間内に到達できない場合は、実習前までに教員がチェックします。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院		
参考文献	看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア		

*実務経験のある教員

科目名	基礎看護技術Ⅱ	担当講師	*中村 伊織
単位数 (時間数)	1(30)	配当年次	1
科目の概要	本科目では、看護の対象である人間を生活者としてとらえ、人間にとっての日常生活行動の意味と生活を整える意義を学ぶ。また、対象に応じた日常生活援助技術を選択し、安全・安楽に配慮しながら実践できる基礎を学ぶ。		
到達目標	人間にとっての日常生活行動の意味と生活を整え、日常生活援助技術を安全・安楽に配慮しながら実践できる。 1.日常生活の意義について理解できる。 2.環境調整技術について理解できる。 3.食事援助技術について理解できる。 4.排泄援助技術について理解できる。		
関連科目	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ・Ⅲ 基礎看護学実習Ⅱ・Ⅲ		
CP・DP との関連	CP3.健康状態やその変化に応じて科学的根拠をもって看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP1.人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2.科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP3.主体性をもちながら、他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。 DP4.対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。 DP5.看護師としての使命感を持ち、時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	日常生活援助技術とは	講義
	2	環境調整技術	講義
	3	環境調整技術(ベッドメイキング)の実際	実技
	4		
	5	食事の援助技術①(基礎知識)	講義
	6	食事の援助技術②(食事介助)	講義
	7	食事の援助技術③(経管栄養法による流動食の注入)	講義
	8	食事介助技術	実技
	9		
	10	排泄援助技術①(自然排尿及び自然排便の基礎知識)	講義
	11	排泄援助技術②(床上,ポータブルトイレ,オムツ等,浣腸,摘便)	講義
	12	排泄援助技術③(導尿・膀胱留置カテーテルの挿入)	講義
	13	排泄援助の実際(床上排泄,オムツ交換,浣腸,摘便,一時導尿)	演習
	14		
15	ストーマ管理	講義	
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	技術の習得を目指すため個人演習など,主体的に取り組んでいきましょう。時間内に到達できない場合は,基礎看護学実習前までに教員がチェックします。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア		
参考文献	講義において適宜指示します。		

*実務経験のある教員

科目名	基礎看護技術Ⅲ	担当講師	* 西村 優子
単位数 (時間数)	1(30)	配当年次	1
科目の概要	本科目では、看護の対象である人間を生活者としてとらえ、人間にとっての日常生活行動の意味と生活を整える意義を学ぶ。また、対象に応じた日常生活援助技術を選択し、安全・安楽に配慮しながら実践できる基礎を学ぶ。		
到達目標	人間にとっての日常生活行動の意味と生活を整え、日常生活援助技術を安全・安楽に配慮しながら実践できる。 1.安全・安楽に日常生活動作ができるための援助技術を習得できる。 2.健康障害や治療的行動制限により身体面の清潔が保てない人に対する援助技術を習得する。 3.事例に応じた日常生活援助技術を考え、実践できる。		
関連科目	看護形態機能学Ⅰ 看護学概論 臨床看護学総論 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 臨地実習		
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 CP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP3. 主体性をもちながら、他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。 DP5. 看護師としての使命感を持ち、時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	基本的動作の援助(姿勢・体位・移動)	講義
	2	移動技術(体位変換・保持,歩行・移動の介助,移乗介助,車椅子ストレッチャーでの移送)自動・他動運動の援助	実技
	3		
	4		
	5	睡眠・休息の援助	講義
	6	清潔援助の基礎知識	講義
	7	清潔援助技術①(入浴・シャワー浴,全身清拭,洗髪)	講義
	8	清潔援助技術②(手浴・足浴,陰部洗浄,口腔ケア,整容)	講義
	9	衣生活援助の基礎知識	講義
	10	衣生活援助技術(病衣・寝衣交換)	講義
	11	衣生活援助技術 (点滴・ドレーン等をしていない患者及び留置している患者の寝衣交換)	実技
	12		
	13	事例に応じた日常生活援助を考える(グループワーク,発表)	演習
	14		
15			
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	技術の習得を目指すため個人演習など,主体的に取り組んでいきましょう。時間内に到達できない場合は,基礎看護学実習前までに教員がチェックします。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院		
参考文献	看護がみえる vol.1.2.3 フィジカルアセスメント メディックメディア		

*実務経験のある教員

科目名	基礎看護技術Ⅳ	担当講師	*後藤 富美子 15 時間 *中村 伊織 15 時間
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	本科目では,診療補助技術の意義と看護の役割を理解し,安全で確実な診療補助技術を実践できるための基礎的な知識と技術を修得する。また,技術の種類によっては身体侵襲による苦痛を伴うことがあるため,対象の思いを理解し,対象に配慮した援助について学ぶ。		
到達目標	診療補助技術を安全で正確に,対象の思いに配慮しながら実施できる知識と技術を修得する。 1.診療補助技術の意義と看護の役割を理解する。 2.呼吸・循環を整える技術を修得する。 3.創傷処置の方法と褥瘡予防の技術を修得する。 4.症状・生体機能管理技術について理解する。		
関連科目	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 看護形態機能学Ⅰ 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ		
CP・DPとの関連	CP4. 対象の状態に応じた, 確かな看護技術力を身につけている。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し, 共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2. 科学を探究し, 批判的で論理的な思考ができ, 適切な判断力を身につけている。 DP3. 主体性をもちながら, 他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた, 確かな看護技術力を身につけている。 DP5. 看護師としての使命感を持ち, 時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	診療補助技術における看護の役割	講義
	2	呼吸を整える技術 (酸素療法,排痰ケア)	講義 実技
	3		
	4	呼吸を整える技術 (胸腔ドレナージ,吸入,人工呼吸療法)、ME 機器	講義 実技
	5		
	6	体温管理の技術,生体情報のモニタリング	講義 実技
	7		
	8	創傷管理技術①(創洗浄、創保護、包帯法)	講義
	9	創傷管理技術②(ドレーン類の挿入部の処置)	講義
	10	創傷処置の実際 (創洗浄と創保護,包帯法,ドレーン類の挿入部の処置)	講義 実技
	11		
	12		
	13	褥瘡予防ケア	講義 実技
	14		
15	単位認定試験	試験	
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上の アドバイス	技術の習得を目指すため個人演習など,主体的に取り組んでいきましょう。時間内に到達できない場合は,1年生終了までに教員がチェックします。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院		
参考文献	看護がみえる vol.4 フィジカルアセスメント メディックメディア		

*実務経験のある教員

科目名	基礎看護技術Ⅴ	担当講師	*西村 優子
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	本科目では、診療補助技術の意義と看護の役割を理解し、安全で確実な診療補助技術を実践できるための基礎的な知識と技術を修得する。また、技術の種類によっては身体侵襲による苦痛を伴うことがあるため、対象の思いを理解し、対象に配慮した援助について学ぶ。		
到達目標	診療補助技術を安全で正確に、対象の思いに配慮しながら実施できる知識と技術を修得する。 1. 与薬の技術を修得する。 2. 診察・検査・処置における技術について理解する。 3. 診療を受ける対象の思いを理解し、対象に配慮した行動がとれる。		
関連科目	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 看護形態機能学Ⅰ 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ		
CP・DPとの関連	CP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP3. 主体性をもちながら、他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。 DP5. 看護師としての使命感を持ち、時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	与薬の基礎知識と看護師の役割	講義
	2	与薬の技術①(経口・吸入・点眼・点鼻・経皮・直腸)	講義
	3		実技
	4	与薬の技術②(注射の基礎知識)	講義
	5	与薬の技術③(皮下・皮内・筋肉)	講義
	6	与薬の技術④(皮下・皮内・筋肉)	実技
	7		
	8	与薬の技術⑤(静脈・輸血の管理)	講義
	9	与薬の技術⑥(点滴静脈内注射)	講義
	10		実技
	11	診察・検査・処置における技術	講義
	12	生体機能管理技術①(尿・便・喀痰)	講義
	13	生体機能管理技術②(血液検査・静脈内採血)	講義
	14		実技
15	単位認定試験	試験	
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上のアドバイス	技術の習得を目指すため個人演習など、主体的に取り組んでいきましょう。時間内に到達できない場合は、1年生終了までに教員がチェックします。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院		
参考文献	看護がみえる vol.1.2.3 フィジカルアセスメント メディックメディア		

*実務経験のある教員

科目名	臨床看護総論	担当講師	* 吉野 千春
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	本科目では,多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階にある人々を対象に看護学の知識や看護技術を統合し,応用するためのプロセスを学ぶ。あらゆる対象の状況(健康状態,症状,治療・処置)に対し,科学的根拠に基づく看護実践の展開方法について学ぶ。		
到達目標	健康障害を持つ対象を理解し,状態や症状,治療処置に応じた看護について理解する。 1.健康上のニーズを持つ対象と家族への看護について理解する。 2.健康状態の経過に基づく看護について理解する。 3.主要な症状を示す対象者への看護について理解する。 4.治療・処置を受ける対象者への看護について理解する。 5.看護上の問題解決に向けた看護実践の展開について理解できる。		
関連科目	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 疾病と治療論Ⅰ～Ⅵ 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ～Ⅴ 基礎看護学実習Ⅱ・Ⅲ		
CP・DPとの関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し, 共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2. 科学を探究し, 批判的で論理的な思考ができ, 適切な判断力を身につけている。 DP3. 主体性をもちながら, 他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた, 確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	講義
	2	急性期の特徴とその看護	講義
	3	回復期の特徴とその看護	講義
	4	慢性期の特徴とその看護	講義
	5	終末期の特徴とその看護	講義
	6	呼吸・循環に関連する症状を示す対象者への看護	講義・演習
	7	栄養・代謝に関連する症状を示す対象者への看護	講義・演習
	8	排泄に関連する症状を示す対象者への看護	講義・演習
	9	活動・休息に関連する症状を示す対象者への看護	講義・演習
	10	感覚・知覚に関連する症状を示す対象者への看護	講義・演習
	11	安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護	講義・演習
	12	輸液療法・化学療法を受ける患者の看護	講義・演習
	13	手術療法を受ける患者の看護①	講義・演習
	14	手術療法を受ける患者の看護②	講義・演習
15	まとめ / 単位認定試験	講義・試験	
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上のアドバイス	既習の知識の復習と,事前課題の予習をして臨みましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院		
参考文献	随時紹介		

*実務経験のある教員

科目名	地域で暮らす人と健康	担当講師	佐藤 快信 * 田中 伸子 * 中村 伊織	10 時間 10 時間 10 時間
単位数 (時間数)	1 (30)	配当年次	1	
科目の概要	本科目は地域で暮らす人々の生活に学生が実際に参加し、地域が個人や家族の健康な生活にどのように関わっているかを理解することをめざしている。参加観察した地域の暮らしを自助、互助、共助、公助の視点をもって再構成し、自治体や各種団体、患者会、隣人や家族などが健康な生活の実現に向けて支援し、助け合っていることを理解する。健康な暮らしに向けての課題を見出し、それを共有する力を身につける。			
到達目標	フィールドワークや地区踏査を通し、実践例等を基に、地域を自助・互助・共助・公助の視点から再構成して考察し、地域組織づくりや地域包括ケアシステム構築・維持のための課題に気づく。 目標1 暮らしを理解すると共に、暮らしが健康に与える影響を理解する。 目標2 地域や暮らしを、「健康を守る」という視点で観察する。 目標3 自助・互助・共助・公助の視点から地域を考察する。			
関連科目	家族社会学 地域・在宅看護概論 地域実習			
CP・DPとの関連	CP2. 他者と心と力を合わせ、共有した目標の達成に向け、今すべきことを見つけ、真剣に取り組む体験を提供する。 CP6. 対象の生活に密着した看護実践者であると共に、地域への愛着をもち、地域の課題解決に向け貢献できる人を育成するカリキュラムを展開する。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP3. 主体性をもちながら、他へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。 DP6. 変化を恐れず、新しい問題へ対応するために創意工夫できる力を身につけている。			
授業計画	回	学習内容		方法
	1	学習ガイダンス /地域の理解① 地域・社会とはなにか		講義
	2	地域の理解② 日本の地域社会の特徴		講義
	3	パーソナルネットワークと相互依存① 暮らすということ		講義
	4	パーソナルネットワークと相互依存② 支えあって生きるとは		講義
	5	フィールドワークの学び方		講義
	6	地域の生活環境が健康に与える影響（文化的・社会的環境・自然環境） ①地域に暮らす人々が健康を維持しながら生活するために、どのような人々がどのような目的と方法で活動しているか観察する。 ②地域に暮らす人々が健康に生活するための課題に気づく。		フィールドワーク
	7			
	8			
	9			
	10			
	11	自助・互助・共助・公助		演習
	12	①フィールドワークや地区踏査を通して学んだことを基に、地域を自助・互助・共助・公助の点から再構成し、考察する。		
	13	②実践例を基に、地域組織づくりや地域包括ケアシステムの構築に必要な課題を見出す。		
	14	学習成果発表会		
15				
成績評価	学習成果発表(50%) + レポート(50%)			
履修上のアドバイス	普遍化された理論を学ぶだけではなく、観察することを出発点として帰納法的なアプローチで学びます。現地に赴き、地区のことを細かく調べることで地域の理解を深めます。疑問を持ち主体的に行動することで学習の質向上が期待できます。			
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 社会学 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 医学書院			
参考文献	随時紹介			

*実務経験のある教員

科目名	地域・在宅看護概論	担当講師	* 限上 貴子 * 松尾 彰	24時間 6時間
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	1	
科目の概要	<p>本科目は地域看護の概念を理解し、在宅看護の歴史や在宅看護が必要とされる社会的な背景を踏まえ、地域看護および在宅看護の概念と対象者や活動の場、活動方法の特徴、地域・在宅看護を取り巻く保健医療福祉資源とそのシステムについて学習する。個人と家族を対象とした地域・在宅看護の意義と目的を理解し、家族構成員の様々な健康レベルによるヘルスニーズと家族の問題によって発生する看護上の問題を理解する。</p>			
到達目標	<p>地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・在宅看護が必要とされる社会的背景が理解できる。 2. 地域・在宅看護の対象（個人と家族）の生活を知り、支援の必要性を理解できる。 3. 対象者の生活を支える多職種協働・連携の必要性が理解できる。 4. 地域・在宅看護に必要な法と制度と社会資源が理解できる。 			
関連科目	地域で暮らす人と健康	地域・在宅看護援助論	地域実習	在宅看護論実習
CP・DPとの関連	<p>CP6. 対象の生活に密着した看護実践者であると共に、地域への愛着をもち、地域の課題解決に向け貢献できる人を育成するカリキュラムを展開する。</p> <p>DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。</p> <p>DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。</p> <p>DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。</p>			
授業計画	回	学習内容		方法
	1	地域・在宅看護の背景		講義
	2	地域・在宅看護の基盤 地域療養を支える在宅看護の役割・機能		講義
	3	地域・在宅看護を展開するための基本理念と倫理		講義
	4	地域・在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件		講義
	5	在宅療養の場における家族のとらえ方と家族への看護		講義
	6	疾病とライフステージ 【松尾】		講義
	7	医療専門職との連携 多職種連携からのネットワークづくり 【松尾】		講義
	8	地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 【松尾】		講義
	9	地域包括ケアシステムの中の看護の役割		講義
	10	多職種連携のための看護の役割		講義
	11	社会資源の活用	医療保険制度	講義
	12	社会資源の活用	介護保険制度	講義
	13	障害者に関する法律		講義
	14	難病法	子どもの在宅療養を支える制度と社会資源	講義
15	単位認定試験		試験	
単位認定	単位認定試験 100%			
履修上のアドバイス	専門用語や定義の理解をしておきましょう。事前学習課題を出すことがあります。提出期限を厳守しましょう。			
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院			
参考文献	随時紹介			

* 実務経験のある教員

科目名	成人看護学概論	担当講師	*後藤 富美子
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	ライフサイクルの中で最も長い成人期にある人々の身体的・心理的・社会的な特徴および発達課題からみた特徴について学ぶ。また、成人のヘルスプロモーションを促進する看護の基本とその方法について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.成人期にある人の発達段階の特徴を理解する。 2.成人期にある人々を取り巻く環境と生活から見た健康について理解する。 3.成人期にある人の健康バランスに影響を及ぼす要因とその対処方法について理解する。 4.成人を対象にした保健・医療・福祉システムの概要について理解する。 5.成人期にある人の効果的な症状アセスメントを導く看護アプローチについて理解する。 6.成人の集団に対する看護アプローチについて理解する。 7.成人期にある人のヘルスプロモーションを促進する看護の場と看護活動について理解する。 8.成人期にある人の療養の場の移行支援について学び、成人が利用できるサービスを適切に活用するための知識を得る。 		
関連科目	看護学概論 家族社会学 教育学 健康教育論		
CP・DPとの関連	<p>CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。</p> <p>DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。</p> <p>DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。</p> <p>DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。</p>		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	成人の生活と健康① 成人期の発達段階の特徴と生活の営み	講義
	2	成人の生活と健康② 働いて生活を営むこと	講義
	3	成人を取り巻く環境と生活から見た健康	講義
	4	成人の生活と健康をまもりはぐくむシステム	講義
	5	成人への看護アプローチの基本①トランスセオレティカルモデルとエンパワメントを促すアプローチ	講義
	6	成人への看護アプローチの基本②成人の自己効力感に着目したマネジメント	講義
	7	成人への看護アプローチの基本③健康問題を持つ大人と看護師の人間関係	講義
	8	成人への看護アプローチの基本④集団における看護アプローチとチームアプローチ	講義
	9	成人への看護アプローチの基本⑤看護実践における倫理的判断	講義
	10	成人への看護アプローチの基本⑥(意思決定支援と家族支援)	講義
	11	成人の健康レベルや状態に応じた看護①ヘルスプロモーションと看護	講義
	12	成人の健康レベルや状態に応じた看護②地域及び職場におけるヘルスプロモーション	講義
	13	成人のライフスタイルと健康問題	講義
	14	成人期にある人の生活行動がもたらす健康問題とその予防	講義
15	まとめ / 単位認定試験	講義・試験	
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上のアドバイス	自分自身や身近な大人と照らし合わせながら学習を進めると理解が深まります。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 成人看護学 I 医学書院		
参考文献	国民衛生の動向 厚生統計協会		

*実務経験のある教員

科目名	成人臨床看護総論	担当講師	*後藤 富美子
単位数 (時間数)	1(15)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	成人に対する看護ケアの基盤となる主要な概念や理論について学ぶ。成人期特有の疾患や症状を持つ対象が、あらゆる場で生活していくことを支えるための看護について学ぶ。		
到達目標	1.成人期にある人の健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護について理解する。 2.慢性病とともに生きる成人期にある人を支えるための看護について理解する。 3.障害を持ちながら生活する成人期にある人を支援する看護について理解する。 4.成人期にある人の最期のときを支える看護について理解する。		
関連科目	臨床看護総論 成人看護学概論 成人臨床看護の実際Ⅰ～Ⅳ 成人・老年看護学実習Ⅱ～Ⅳ		
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	成人期にある人の健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護① 急性期にある成人の特徴	講義
	2	成人期にある人の健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護② 急性期にある成人の看護	講義
	3	成人期にある人の健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護③ がん薬物療法・放射線療法を受ける患者の看護	講義
	4	慢性病とともに生きる成人期にある人を支える看護①	講義
	5	慢性病とともに生きる成人期にある人を支える看護②	講義
	6	障害とともに生きる成人期にある人とその生活を支援する看護	講義
	7	成人期にある人の人生の最期のときを支える看護	講義
	8	単位認定試験	試験
成績評価	単位認定試験(90%)、レポート(10%)		
履修上の アドバイス	臨床看護総論を復習しておきましょう。事前課題に取り組み、予習して授業に臨みましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院		
参考文献	国民衛生の動向 厚生統計協会		

*実務経験のある教員

科目名	成人臨床看護の実際 I	担当講師	*松村圭一郎：呼吸器 12時間 *松尾 美咲：血液・造血器 10時間 *徳永 陽子：がん看護 8時間
単位数 (時間数)	1(30)	配当年次	1
科目の概要	呼吸機能障害を持つ患者、血液・造血機能障害を持つ患者およびがん患者の看護について学ぶ。		
到達目標	1.呼吸機能障害を持つ患者の看護について理解できる。 2.血液・造血機能障害を持つ患者の看護について理解できる。 3.がん患者の看護について理解できる。		
関連科目	治療総論 疾病と治療論 I・II 臨床看護総論 成人・老年看護学実習 II～IV		
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	呼吸器		
	1	症状のある患者の看護(咳嗽、喀痰、血痰、喀血、呼吸困難)	講義
	2	検査を受ける患者の看護(気管支鏡検査、胸腔穿刺、呼吸機能検査、血液動脈血ガス)	講義
	3	治療・処置を受ける患者の看護(人工呼吸器、気管切開、酸素療法)	講義
	4	手術療法を受ける患者の看護(胸腔ドレナージ他)	講義
	5	慢性閉塞性肺疾患、肺がん患者の看護	講義
	6	肺炎、気管支喘息患者の看護	講義
	血液・造血器		
	1	主要症状(貧血・出血傾向・易感染)のある患者の看護	講義
	2	薬物療法を受ける患者の看護	講義
	3	輸血療法、放射線治療を受ける患者の看護	講義
	4	造血幹細胞移植を受ける患者の看護	講義
	5	白血病・悪性リンパ腫患者の看護	講義
	がん看護		
	1	薬物療法に関するケア	講義
	2	セルフケア促進に向けた専門的なケア	講義
	3	緩和ケア	講義
	4	がん看護の倫理	講義
	成績評価	単位認定試験 80% (呼吸器 40% 血液・造血器 35% がん看護 25%)	
履修上の アドバイス	単位認定は、呼吸器障害+血液・造血器障害の試験及びがん看護に関する課題レポートにより行います。試験の受験資格は、全時間数の2/3以上の出席としますので、注意しましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院		
参考文献	ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 1 解剖生理学 メディカ出版 看護形態機能学 第3版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版		

*実務経験のある教員

科目名	成人臨床看護の実際Ⅱ	担当講師	*眞壁 里美 : 循環器 12時間 *宗 美晴 : 消化器 10時間 *竹村 恵 : 感染症 8時間
単位数 (時間数)	1(30)	配当年次	1
科目の概要	循環器機能障害、消化器機能障害、感染症を持つ患者の看護について学ぶ。		
到達目標	1.循環器機能障害を持つ患者の看護について理解できる。 2.消化器機能障害を持つ患者の看護について理解できる。 3.感染症を持つ患者の看護について理解できる。		
関連科目	疾病と治療論Ⅱ・Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ・Ⅴ 臨床看護総論 成人・老年看護学実習Ⅱ～Ⅳ		
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	循環器		
	1	循環不全症状に対する看護(胸痛、動悸)	講義
	2	循環不全症状に対する看護(浮腫、呼吸困難、チアノーゼ他)	講義
	3	検査を受ける患者の看護(心血管造影、心電図、血行動態モニタリング他)	講義
	4	治療・処置を受ける患者の看護(薬物療法、心臓カテーテル治療、ペースメーカー)	講義
	5	疾患を持つ患者の看護(虚血性心疾患、心不全、不整脈ほか)	講義
	6	心臓リハビリテーションと看護	講義
	消化器		
	1	疾患を持つ患者の経過と看護	講義
	2	症状に対する看護(嚥下困難、腹痛、下痢・便秘、黄疸他)	講義
	3	周手術期看護(食道・胃切除、大腸切除、ドレーン管理)	講義
	4	潰瘍性大腸炎・クローン病患者の生活指導、肝炎、膵炎、胆のう炎患者の看護	講義
	5	ストーマケア(皮膚・排泄ケア認定看護師)	講義
	感染症		
	1	臨床における感染予防の基礎知識	講義
	2	臨床における感染予防の技術	演習
	3		
	4		
	成績評価	単位認定試験 100% (循環器 40%+消化器 35%+感染症 25%)	
履修上の アドバイス	単位認定は、循環器+消化器+感染症の試験により行います。試験の受験資格は、全時間数の2/3以上の出席としますので、注意しましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [3] 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [11] 感染症 医学書院		
参考文献	ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 1 解剖生理学 メディカ出版 看護形態機能学 第3版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版		

*実務経験のある教員

科目名	老年看護学概論	担当講師	*片山 小百合
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	本科目はライフサイクルの最終段階にある老年期にある人々を正しく理解し、高齢者がその人らしく自立した生活を送れるよう、老年看護の概念を理解し、老年期にある対象の特徴と高齢者を取り巻く社会の現状から老年看護の機能と役割について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護の概念及び看護の役割を理解する。 2. 加齢による身体的・心理的・社会的変化の特徴およびそれに伴う健康問題を理解する。 3. 高齢者の健康に影響を与える要因および高齢者にとっての健康について理解する。 4. 高齢社会の現状と高齢者に対する保健・医療・福祉対策の現状と動向を理解する。 		
関連科目	社会保障制度 関係法規		
CP・DPとの関連	<p>CP1. 生命と個人の尊厳を守り、倫理的ジレンマを克服するコンピテンシーを身につけるための機会を提供する。</p> <p>CP4. 保健・医療・福祉における専門職業人として行動するために、教科及び教科外活動を通じて社会人に求められる基礎的能力を身につける機会を提供する。</p> <p>DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。</p> <p>DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。</p> <p>DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。</p>		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	老いるということ 「老いのイメージ」①加齢と老化②加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化	講義・演習
	2	老いを生きるということ①高齢者の定義②成長と発達	講義
	3	老いるということ、老いを生きるということ(学内演習「高齢者体験」)	演習・講義
	4	老いるということ、老いを生きるということ(学内演習「高齢者体験」)	演習・講義
	5	超高齢者社会と社会保障:超高齢社会の現状と動向・高齢者の権利擁護	講義
	6	老年看護のなりたち①老年看護の役割②高齢者の社会参加	講義
	7	老年看護のなりたち③老年看護における理論・概念	講義
	8	高齢者のヘルスアセスメント①ヘルスアセスメントの基本	講義
	9	高齢者のヘルスアセスメント②身体に加齢変化	講義・演習
	10	高齢者のヘルスアセスメント③	演習
	11	生活・療養の場における看護①高齢者のヘルスプロモーション・施設における看護	講義
	12	生活・療養の場における看護②家族の看護・援助	講義
	13	高齢者と医療安全	講義
	14	高齢者と災害	講義・演習
15	単位認定試験	試験	
成績評価	単位認定試験(80%)+課題レポート(20%)		
履修上の アドバイス	授業前の事前学習課題を出します。提出期限を守りましょう。フィジカルアセスメントの復習をしておきましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会		
参考文献	看護が見える Vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア		

*実務経験のある教員

科目名	老年看護援助論	担当講師	*片山 小百合
単位数 (時間数)	1 (15) テスト含む	配当年次	1
科目の概要	本科目は、老年期にある人の生活を支える看護の視点および生活機能と包括アセスメントを理解し、加齢に伴う日常生活や治療そのものが高齢者に与える影響を理解するとともに高齢者の QOL を重視した看護を学ぶ。		
到達目標	1. 高齢者の日常生活を支える基本動作と看護を理解できる。 2. 高齢者とのコミュニケーションと看護を理解できる。 3. 高齢者の健康段階に応じた看護の方法を理解できる。		
関連科目	看護コミュニケーション 基礎看護技術Ⅰ～Ⅲ 成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ		
CP・DP との関連	CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回数	学習内容	方法
	1	生活機能を支える看護(基本的活動①②③)	講義・演習
	2	生活を支える看護(コミュニケーション技術)	講義・演習
	3	生活を支える看護(生活リズム)	講義・演習
	4	生活を支える看護(清潔)	講義・演習
	5	生活を支える看護(食事・食生活)	講義・演習
	6	生活を支える看護(排泄)	講義・演習
	7	生活を支える看護(校内演習:おむつ交換)	演習
	8	単位認定試験	試験
成績評価の方法	筆記試験(80%)＋課題レポート(20%)		
履修上の アドバイス	基礎看護学の日常生活援助技術の復習をおこなひましょう。 授業前の事前学習課題を出します。提出期限を守りましょう。 演習を多く取り入れた授業形態を行います。主体的に学習に取り組みましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院		
参考文献	随時紹介		

*実務経験のある教員

科目名	老年期に特有な障害と看護	担当講師	* 藤本 慶次郎 : 4時間 * 片山 小百合 : 26時間
単位数 (時間数)	1 (30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	老年期に特徴的な疾患とそれに伴う検査・治療・処置について学ぶ。さらに高齢者が疾病や障害を持ちながら、自立した生活が送れるようにQOLを重視した看護について学ぶ。また、多死社会を迎えている現在、人生のライフサイクルの最後の時期として、それまでの人生を総括し、最期までその人らしく生きることを支える看護を学習する。		
到達目標	1. 高齢者に多い症状と障害の看護を理解する。 2. 認知機能の障害に対する疾患と治療を理解する。 3. 治療を必要とする高齢者の看護を理解する。 4. 高齢者におけるエンドオブライフケアと看護師の役割を理解する。		
関連科目	臨床看護総論 精神看護学概論 老年看護援助論 成人・老年看護学実習 I～IV		
CP・DPとの関連	CP1. 生命と個人の尊厳を守り、倫理的なジレンマを克服するコンピテンシーを身につけるための機会を提供する。 CP4. 健康段階・成長発達段階に応じて対象者のニーズを理解し、科学的根拠に基づいた看護を実践するための必要な基礎的能力を養う。 DP2. 批判的で論理的な思考を身につけ、科学を探究し、適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	高齢者の症候のアセスメントと看護①:発熱・痛み・掻痒・脱水	講義
	2	高齢者の症候のアセスメントと看護②:嘔吐・浮腫・倦怠感・褥瘡	講義
	3	認知機能障害のある高齢者の看護:うつ・せん妄の理解と看護	講義
	4	認知機能障害のある高齢者の看護①:認知症の理解	講義
	5	認知機能障害のある高齢者の看護②:認知症の看護	講義・演習
	6	認知機能障害のある高齢者の看護③:認知症の看護	講義・演習
	7	認知機能障害のある高齢者の看護④:認知症の看護	講義・演習
	8	検査を受ける高齢者の看護	講義・演習
	9	薬物療法を受ける高齢者の看護	講義・演習
	10	手術を受ける高齢者の看護	講義・演習
	11	リハビリテーションを受ける高齢者の看護	講義・演習
	12	入院治療を受ける高齢者の看護	講義・演習
	13	エンドオブライフケア①高齢者におけるエンドオブライフケア	講義
	14	エンドオブライフケア②高齢者の尊厳を守るための支援	講義
15	まとめ/単位認定試験	講義・試験	
成績評価	単位認定試験(80%)+課題レポート(20%)		
履修上の アドバイス	授業前の事前学習課題を出します。提出期限を守りましょう。 演習を多く取り入れた授業形態を行います。主体的に学習に取り組みましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院		
参考文献	随時紹介		

*実務経験のある教員

科目名	小児看護学概論	担当講師	*西村 優子
単位数(時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	<p>本科目は、進行する少子化の中で、子どもの基本的人権を守り、子どもと家族が置かれている状況を的確に判断し、あらゆる成長発達段階や健康レベルに応じた看護を全人的に学ぶ科目である。子どもの成長発達という特性を軸に、健康増進のために必要な子どもと家族への看護について学ぶ。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象と目的について述べることができる。 2. 子どもの権利を尊重した看護について理解できる。 3. 小児看護における家族の位置づけについて理解できる。 4. 子ども観を社会的状況、育児環境変化から理解し、現代の問題について考察できる。 5. 小児医療と小児看護の変遷を理解し、これからの課題について考察できる。 6. 子どもと家族を支援するための法律や施策について理解できる。 7. 小児看護に用いられる理論を理解できる。 		
関連科目	心理学 看護学概論 母性看護学概論 小児看護学実習		
CP・DPとの関連	<p>CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。</p> <p>DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につける。</p> <p>DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。</p> <p>DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。</p>		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	小児看護の対象・目的 小児看護の役割と責務	講義
	2	子どもの成長と発達①	講義
	3	子どもの成長と発達②	講義
	4	子どもの成長と発達③	講義
	5	発育評価と小児看護の基礎となる理論	講義
	6	子どもを取り巻く社会と保健統計① 子どもを取り巻く社会	講義
	7	子どもを取り巻く社会と保健統計② 保健統計からみる子どもの健康	講義
	8	小児期の健康な生活と世話	講義
	9	小児各期の健康問題	講義
	10	小児の保健と福祉の動向① 母子保健	講義
	11	小児の保健と福祉の動向② 児童福祉	講義
	12	子どもの権利と小児看護①	講義
	13	子どもの権利と小児看護②	講義
	14	小児医療の変遷と課題	講義
15	小児看護の課題 単位認定試験	筆記試験	
成績評価	単位認定試験(約90%) + 課題レポートおよび小テスト(約10%)		
履修上のアドバイス	事前学習課題を出すことがあります。提出期限を厳守しましょう。事前に配付された資料は予習して授業に参加すると内容理解が深まるでしょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院		
参考文献	国民衛生の動向 厚生統計協会		

*実務経験のある教員

科目名	母性看護学概論	担当講師	*中野 真由美
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	母性の特徴と看護の役割及び母性を取り巻く環境について学ぶ。また、母子保健、母性に関する法律を学び、性に関する社会問題、生命倫理について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性について、愛着形成、母子相互作用について理解できる。 2. 母子保健統計と母性看護の対象を取り巻く環境が理解できる。 3. 母性看護の対象に関する法律と母子保健施策が理解できる。 4. リプロダクティブヘルスに関する健康問題と看護が理解できる。 5. 女性のライフステージ各期の健康問題と看護が理解できる。 		
関連科目	家族社会学 倫理学 看護倫理 看護形態機能学ⅠⅡ 疾病と治療論Ⅴ 小児看護学概論		
CP・DPとの関連	CP1. 生命と個人の尊厳を守り、倫理的ジレンマを克服するコンピテンシーを身につけるための機会を提供する。 CP3. 健康状態やその変化に応じて科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける機会を提供する。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考を身につけ、適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	母性看護の主要な概念	講義
	2	母子保健統計	講義
	3	母性看護の対象を取り巻く環境の変遷と現状	講義
	4	母性看護の対象に関する法律と母子保健施策	講義
	5	セクシュアリティの概念	講義
	6	リプロダクティブヘルスに関する健康問題と看護①	演習
	7	リプロダクティブヘルスに関する健康問題と看護②	演習
	8	リプロダクティブヘルスに関する健康問題と看護③	演習
	9	リプロダクティブヘルスに関する健康問題と看護④	講義
	10	思春期の健康問題と保健指導	講義
	11	性成熟期の健康問題と保健指導	講義
	12	更年期の健康問題と保健指導	講義
	13	出生前診断の現状と受ける対象の看護	講義
	14	不妊治療の現状と受ける対象の看護	講義
15	まとめ / 単位認定試験	講義・試験	
成績評価	単位認定試験(95%) レポート課題(5%)		
履修上のアドバイス	単位認定試験だけでなく、レポート課題も評価対象となるため、提出期限についても注意を払っておくとよいでしょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院		
参考文献	公衆衛生がみえる メディックメディア わが国の母子保健 財団法人母子衛生研究会		

*実務経験のある教員

科目名	精神看護学概論	担当講師	* 吉野 千春
単位数 (時間数)	1(30)テスト含む	配当年次	1
科目の概要	精神看護の基本理念をもとに、ライフサイクル各期に起こる様々な心の問題を捉え、精神の健康保持に必要な看護について学ぶ。また、精神障害者に対する人権擁護の歴史を学び、精神障害者が抱える社会的問題と法律および様々な制度を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会で生活する人々のこころの健康について理解する。 2. 対処行動・防衛機制・危機的状況と危機介入について理解する。 3. こころの健康問題をもつ患者および家族に対して必要な看護を行うための基礎的知識や看護技術を身につける。 4. 精神医療の歴史を踏まえ、人権を尊重し、精神看護における倫理観を養うことができる。 		
関連科目	心の健康のための治療と看護 精神看護技術 精神臨床看護の実際 精神看護学実習		
CP・DPとの関連	CP1. 生命と個人の尊厳を守り、倫理的ジレンマを克服するコンピテンシーを身につけるための機会を提供する。 DP1. 人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2. 科学を探究し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP4. 対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。		
授業計画	回	学習内容	方法
	1	心の健康とは	講義
	2	ストレスと対処行動(コーピング)①	講義・演習
	3	ストレスと対処行動(コーピング)②	演習
	4	危機介入とストレス理論	講義
	5	人間の心の働きとパーソナリティ	講義
	6	発達段階と精神の健康	講義
	7	精神看護の歴史と人権擁護	講義・演習
	8	精神障害者の人権について	講義・演習
	9	精神障害者のとらえ方と倫理	講義・演習
	10	生活の場と精神保健	講義
	11	生活を支える制度と法	講義
	12	地域で精神障害者を支援するための方法①	講義
	13	地域で精神障害者を支援するための方法②	演習
	14	地域で精神障害者を支援するための方法③	プレゼンテーション
15	単位認定試験	試験	
成績評価	単位認定試験(100%)		
履修上のアドバイス	身近な問題として精神の健康状態の理解に関心をもち講義を受けるようにしましょう。精神看護に必要な法律や制度について調べ、グループワークでは自己の倫理観が養われるように積極的に参加しましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院		
参考文献	精神看護学Ⅰ 精神保健学 スーベルヒロカワ 情緒発達と看護の基本 メディカ出版 精神看護学ノート 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会		

*実務経験のある教員

科目名	基礎看護学実習 I	担当講師	* 後藤 富美子 * 中野 真由美 * 吉野 千春 * 片山小百合 * 西村 優子 * 中村 伊織	
単位数 (時間数)	1 (30)	配当年次	1 年次	
科目の概要	基礎看護学実習は、看護に必要な基礎的理論や看護技術を修得し、対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養うことを目的としている。基礎看護学実習をⅠ・Ⅱ・Ⅲと設定し、段階的に看護実践力を身につけていく。基礎看護学実習Ⅰでは、看護の様々な場면을早期に体験することで、看護の役割とその多様性を知り、看護への興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組む姿勢を育むことをねらいとする。さらに、自身の学習課題を見出すことができる基本的態度を身に付けることを目指す。			
到達目標	病院の機能および患者の療養環境と看護の実際を知る。			
関連科目	基礎看護学概論	看護コミュニケーション	基礎看護技術Ⅰ	
CP・DP との関連	CP1.人間の尊厳 CP2.社会人基礎力 CP3.判断と実践 CP.4 協同の精神 CP5.地域への貢献 CP6.自己教育力 CP7.真正の評価 DP1.人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2.科学を探求し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP3.主体性をもちながら、他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。 DP4.対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。 DP5.看護師としての使命感を持ち、時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。 DP6.変化を恐れず、新しい問題へ対応するために創意工夫できる力を身につけている。			
授業計画	実習方法			
	1) 病院・病棟オリエンテーションを受ける。 2) 病院内を見学する。 3) 看護師に帯同し、看護師の思考と行動を学ぶ。 3) 入院患者とのコミュニケーションを体験する。 4) 毎日カンファレンスを行い、学びを共有する。			
成績評価の方法	実習評価表を用いて 100 点満点で評価する。			
履修上の アドバイス	入学して初めての实習です。実習オリエンテーションが行われますので、積極的に参加し、準備をしましょう。			
テキスト	系統看護学講座 全巻 医学書院			
参考文献	随時紹介します。			

* 実務経験のある教員

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	担当講師	* 後藤富美子 * 中野真由美 * 吉野千春 * 片山小百合 * 西村優子 * 中村伊織
単位数 (時間数)	1 (45)	配当年次	1 年次
科目の概要	基礎看護学実習は、看護に必要な基礎的理論や看護技術を修得し、対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養うことを目的としている。基礎看護学実習をⅠ・Ⅱ・Ⅲと設定し、段階的に看護実践力を身につけていく。基礎看護学実習Ⅱでは、学内で学んだ知識・技術を活用し、様々な対象に応じた看護を実践する基礎的能力を身につけることをねらいとする。療養生活を送る人々を身体的・心理的・社会的側面から捉え、必要な援助を実践するなかで、対象の反応や結果から看護の根拠・目的・方法について改めて考える機会としたい。また、チームの一員として責任を持った行動がとれることを目指す。		
到達目標	対象に応じた日常生活援助が実践できる基礎的能力を養う。		
関連科目	看護学概論 看護コミュニケーション 基礎看護技術Ⅰ～Ⅴ 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 看護形態機能学Ⅰ		
CP・DP との関連	CP1.人間の尊厳 CP2.社会人基礎力 CP3.判断と実践 CP.4 協同の精神 CP5.地域への貢献 CP6.自己教育力 CP7.真正の評価 DP1.人間の生命と権利を尊重し、共感的で倫理的な態度を身につけている。 DP2.科学を探求し、批判的で論理的な思考ができ、適切な判断力を身につけている。 DP3.主体性をもちながら、他者へ働きかけるコミュニケーション力を身につけている。 DP4.対象の状態に応じた、確かな看護技術力を身につけている。 DP5.看護師としての使命感を持ち、時代に応じた知識・技術を学び続けるための自己教育力を身につけている。 DP6.変化を恐れず、新しい問題へ対応するために創意工夫できる力を身につけている。		
授業計画	実習方法		
	1) 看護師とともに、受け持ち患者の日常生活援助を行う。 2) 実習目標を持ち、実習計画を立て、実施する。 3) 毎日カンファレンスを行い、患者情報や実習で学んだことを共有する。		
成績評価の方法	実習評価表を用いて 100 点満点で評価する。		
履修上の アドバイス	実習オリエンテーションが行われますので、積極的に参加し、準備をしましょう。		
テキスト	系統看護学講座 全巻 医学書院		
参考文献	随時紹介します。		

* 実務経験のある教員